

令和5年度

# 第25回 わたしの主張岩手県大会 発表文集



主催：わたしの主張岩手県大会実行委員会  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 目 次

1	はじめに .....	1
2	大会日程 .....	2
3	大会風景 .....	3
4	わたしの主張発表作品 .....	5

区 分	発 表 題	学 校 名	学 年	氏 名
最優秀賞	心に平和のとりでを	北上市立南中学校	2年	千田ソフィア
優 秀 賞	心・技・体 言葉の重み	二戸市立浄法寺中学校	3年	田 口 悠 就
		紫波町立紫波第一中学校	2年	伊 藤 夢 亜
優 良 賞	地域を守るために 誰かの笑顔のために 私の一歩	奥州市立東水沢中学校	3年	後 藤 穂 風
		釜石市立釜石中学校	3年	大 下 桜 雅
		陸前高田市立高田東中学校	3年	伊 東 里 咲子
入 賞	誇りをもって生きること 「よく生きる」ということ 対等を生きる 僕が守りたいもの 「多様性」を超えて 心の土台づくり 寄り添いたい 命の可能性 長い歴史の中で ないもの探しの先へ どこへ行っても	盛岡市立下橋中学校	3年	佐々木 煌
		盛岡市立下小路中学校	3年	利 部 遙 磨
		滝沢市立一本木中学校	3年	横 江 穂乃果
		葛巻町立小屋瀬中学校	3年	千 葉 瑛 太
		花巻市立湯本中学校	3年	千 葉 久 遠
		一関市立一関中学校	3年	近 江 那奈子
		一関市立藤沢中学校	3年	伊 東 洸 璃
		遠野市立遠野東中学校	3年	菊 池 璃 子
		宮古市立津軽石中学校	3年	齊 藤 好 花
岩泉町立小川中学校	2年	竹 花 大 和		
久慈市立山形中学校	3年	下 館 春 稀		

※ 各賞受賞作品は地区順に掲載しています。

5	審査委員長講評 .....	23
6	各地区大会の開催結果 .....	24
7	審査要領 .....	28
8	第25回わたしの主張岩手県大会実施要綱 .....	29
9	わたしの主張岩手県大会の期日・会場及び最優秀賞受賞者 .....	31
10	参考 「少年の主張全国大会～わたしの主張 2023～」入賞作品 .....	32

## はじめに

第25回わたしの主張岩手県大会は、令和5年9月13日（水）に盛岡劇場メインホールを会場に開催されました。この大会には、今年は約4,700名の中学生が参加し、県大会には、地区大会で選ばれた代表17名が出場しました。

この大会は、次代を担う中学生に、未来に向けての夢、社会に対しての意見や希望、日常生活の中で感じたことや考えたことを発表する場を提供することにより、自らの主張を正しく伝え理解してもらう力を身に付けるとともに、地域社会との関わりについて考え、行動する契機とするほか、多くの県民に中学生の考えや行動への理解を深めていただくことを通じて、子どもたちの健全育成の充実に期することを目的として実施しているものです。

主張の内容は、日常生活や学校生活など、自分の身の回りで起こる様々な体験を通して、気づいたり学んだりした「生き方」、「考え方」などを訴えるものとなっており、瑞々しい感性と澁刺とした態度で、素直で中学生らしい思いが込められた主張は、どれも感動を与える素晴らしいものばかりでした。特に本年は、戦争、ジェンダー、無意識の偏見、多様性といった現代社会で注目されている事柄をテーマにする発表が目立ちました。

この発表文集から、その主張に込められたメッセージをしっかりと受け止めていただき、次代を担っていく中学生が何を感じ、考えているのかを知る契機としていただければ幸いです。

なお、本大会の最優秀賞受賞者の千田ソフィアさんは、令和5年11月12日（日）に国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」において、努力賞を受賞しました。

おわりに、本大会を開催するにあたり、盛岡市、盛岡市教育委員会をはじめ、関係者の御協力とお力添えをいただきましたことに感謝申し上げます、巻頭のごあいさつといたします。

令和5年12月

わたしの主張岩手県大会実行委員会

## 第 25 回わたしの主張岩手県大会日程

日時：令和 5 年 9 月 13 日（水）13：00～16：30

会場：盛岡劇場メインホール

（盛岡市松尾町 3 番 1 号）

1	開会のことば	わたしの主張岩手県大会実行委員会	門 脇 吉 彦
2	主催者あいさつ	わたしの主張岩手県大会実行委員会 (公社) 岩手県青少年育成県民会議会長	菅 野 洋 樹
3	歓迎のことば	盛岡市子ども未来部長	高 橋 享 孝
4	大会出場者紹介		
5	審査委員紹介		
	審査委員長	(株) 岩手日報社論説委員会委員長	四 戸 聡
	審査委員	N H K 盛岡放送局アナウンサー	大 嶋 貴 志
		(一社) 岩手県芸術文化協会会長	柴 田 和 子
		ガールスカウト岩手県連盟連盟長	高 橋 和 恵
		岩手県中学校文化連盟会長	泉 澤 毅
		(公社) 岩手県青少年育成県民会議副会長	五十嵐 のぶ代
		(公社) 岩手県防犯協会連合会専務理事	村 上 操
6	主張発表		
7	情報メディア講座		
8	成績発表並びに講評	審査委員長	四 戸 聡
9	表彰（賞状）	わたしの主張岩手県大会実行委員会 (公社) 岩手県防犯協会連合会会長	細 江 達 郎
	（記念品授与）	(株) 岩手日報社論説委員会委員長	四 戸 聡
10	閉会のことば	わたしの主張岩手県大会実行委員会	門 脇 吉 彦

開会行事



主催者あいさつ  
岩手県青少年育成県民会議  
菅野洋樹 会長



歓迎のことば  
盛岡市子ども未来部  
高橋享孝 部長

発表風景



閉会行事・表彰式



成績発表・講評  
四戸聡 審査委員長



岩手県防犯協会連合会  
細江達郎 会長



【最優秀賞】  
北上市立南中学校 2年 千田ソフィアさん



【優秀賞】  
二戸市立浄法寺中学校 3年 田口悠就さん



【優秀賞】  
紫波町立紫波第一中学校 2年 伊藤夢亜さん

情報メディア出前講座



テーマ：  
『スマホの向こう側を想像する力』



## 第 25 回わたしの主張岩手県大会出場者 発表作品

(原文のまま掲載)

※ 縦書を横書としたため、漢数字の一部を算用数字に置き換えました。



## 最優秀賞

### 心に平和のとりでを

北上市立南中学校 2年

千田 ソフィア (ちだ・そふいあ)

「早く帰ってきて！」突然の母からの電話。小学6年生の3月。私は学校を早退し、言い表せない不安な気持ちのまま、家まで走って帰りました。「ウクライナで戦争が始まった…」と言って、母は私を抱きしめて泣きました。遠く離れた母の故郷で戦争が起きたことをすぐには受け入れることができませんでした。

私は、日本人の父とウクライナ人の母の間に生まれました。ウクライナには母方の祖母が今も住んでいます。みなさんはウクライナと聞いて何を思い浮かべますか。日本では、ロシアとの戦争で知った人が多いでしょう。私はこれまでに何度かウクライナに滞在していたことがあり、祖母のダンス教室に通う人や、いところを通じて友達もできました。私の学校の敷地の5倍以上はある美しく広大なひまわり畑。隣のお菓子屋さんのバナナアイスの味は忘れられません。私は豊かな自然と優しい心を持ったウクライナの人々が大好きです。

戦争が始まってからニュースなどでウクライナの現状について報道されることが多くなりました。澄んだ青空は爆撃機が飛び交うようになり、美しかった小麦畑はダム襲撃による洪水で失われました。また、ロシアからの襲撃や虐待に怯える日々で、多くの人が安心して生活を送ることすらできなくなりました。祖母もその一人で、ミサイルが多い日には10発も飛んで来るので怖いと、泣きながら電話をしてくれます。私はそんな祖母の声を聞くと、いつも胸が苦しくなります。私はいつかまたウクライナに行ける日が来ると思っていました。しかし、激しい戦闘を経てあの日見たひまわり畑はあるのだろうか。あの時、一緒に遊んだ友

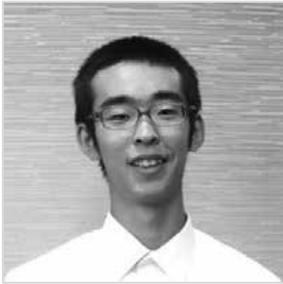
達は無事なのだろうか。優しく面倒を見てくれた大人達は武器を持って今戦っているのだろうか。人々が長年積み上げてきた生活や文化、思い出を互いに破壊しているのです。失われた文化財も人の命も取り戻すことはできません。戦争で傷ついた心を癒やすこともそうたやすくはありません。いつ終わるか分からない、たとえ終わっても元通りに戻すことができないのが戦争なのです。

わたしたちの日常でも、相手の立場や状況を考えず、自分の思ったことを伝えてすれ違うことがあります。まして、文化が異なる国同士では価値観がすれ違ってあたりまえなのです。

「戦争は心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」これはユネスコ憲章の前文に書かれている言葉です。私は、平和のとりでになりたいのです。まずは、相手の話に耳を傾けること。そして、相手に自分たちの考えや文化を知ってもらおうと発信すること。この2つで平和のとりでを築くことができと思っています。私は、ウクライナや日本という枠にとらわれず、さまざまな人々の文化や考え方を理解し、自分も考えを発信して、平和のとりでを築いていきたいです。その第一歩として、チャリティの際、私はこの衣装でウクライナの民族舞踊を披露しています。みなさんも平和のとりでになることができます。自分の思いを伝え、相手に歩み寄り、一緒に平和のとりでを築いていきませんか。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

今回の主張は、私の母がウクライナ人ということで、日々起きているウクライナの現状を伝えたいと思いました。特に、戦争を知らない私たちのような世代に、世界で今起きていること、それが自分たちにも関係があり、何をすべきか考えるきっかけにしてほしいです。周りの人への優しさを持ち、戦争が二度と起きない社会を作りたいです。



## 優秀賞

### 心・技・体

二戸市立浄法寺中学校 3年

田 口 悠 就 (たぐち・はるなり)

「同じ釜の飯を食った仲」

この言葉の意味を痛感したのは、8年間続けている“相撲”です。私が住んでいる浄法寺地区はかつて国体会場にもなり“相撲の町”ともいわれました。私が卒業した小学校では今でも校内相撲大会が行われています。私も小学1年生で初めてまわしを締め、初土俵を踏みました。結果は、初戦敗退、悔しさと同時に、負けず嫌いの私に、火が付きました。幼いながら、「小さい体でも、体の大きい人に勝ちたい！まわし以外の道具を使わず、純粋な体と体がぶつかり合うこの競技で強くなりたい！」という思いで、地元の相撲道場への入部を決意しました。

意気込んで入部したものの、正直、「辞めたい」と思ったことは、何度もありました。どんなに頑張っても勝てない時。また、体と体がぶつかった時の衝撃はとても強烈で、痛さを越えて恐怖心も生まれます。相撲と並行して取り組んできたバスケットボールと違い、チームスポーツではない相撲は、土俵上でフォローしてくれる味方はいません。対一の戦いです。場合によっては自分自身との戦いになります。その弱さに負けそうになったことも、数えきれません。

それでも、私が相撲を続けてこられたのは、一緒に稽古している仲間達、熱心な指導者、合宿を支えてくださる協会の方々あってこそそのものです。寝食を共にする中で、相撲のみならず、礼儀や作法、人との関わり方、人格形成など、社会に出てから必要なことなども教えてください。周りの方々から支えられていることが、ひしひしと、体に、心に沁み、深く、強く、固い絆を感じます。

その方々への恩返しは、結果を残すことはもちろん、相撲を続けることだと思っています。

国技である相撲ですが、現在幕内力士の3人に1人は外国人力士です。日本人の少なさは残念ですが、逆に、外国人に与えている魅力の大きさを感じ、嬉しく思います。私はよく、大相撲の中継を見ます。力士たちの熱い戦いに元気やヒントをもらいます。体の小さい私ですが、「体が小さいなら技で、技がないなら心で、心がないなら体で」という“心・技・体”の教えを胸に、「自分の持てる力を出し切れれば、勝てない相手はどこにもいない」と思って取り組んでいます。強い相手、自分より体の大きい相手に勝った時の喜びは、自分をますます鼓舞させ、次なる目標につながります。まわし一つの純粋な力比で、相手に勝ったときは、高揚感や、達成感でいっぱいになります。また、勝負への一瞬の集中力や判断力を鍛えられることにも面白さを感じます。このような魅力も、私が相撲を続けられる理由です。怪我をしづらい体作り、自分より体の大きい相手にも対応できる技の習得、長い取り組みにも耐えうる持久力、そして精神力などまだまだ沢山のことを身に付けなければいけません。

自分の体と心を鍛えるため、相撲関係者の皆さんに感謝の気持ちを伝えるため、1,500年以上も続く、国技・相撲の歴史と文化を継承していくため、今後も精進して参ります。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

この作品を書いたきっかけは相撲です。小学校から8年間続けているのは沢山の人の協力あってこそそのものです。その方々への恩返しは、結果を残したり、相撲を続けることだと感じました。また「恥ずかしい」「太っている人がやる」などという理由で敬遠されがちな相撲の面白さ、魅力を伝えることで相撲に興味や関心を持って欲しいと思ったからです。



## 優秀賞

### 言葉の重み

紫波町立紫波第一中学校 2年

伊藤 夢 亜 (いとう・ゆめあ)

「どうせ来れないんだから、席置かなくてもいいじゃん。」

中学1年生の時、私のクラスは、教室に全員がそろうことはあまりなかった。相談室に登校するAさんがいたからだ。

ある日の班長会でのことだ。私たちはAさんの席に頭を悩ませていた。Aさんが入りやすいように後ろの席にすることが班替えの条件だった。しかし、Aさんを後ろの席にすると、他の要望が叶えられなくなってしまう。時折、「この人とは嫌」「この人と近くがいい」などの発言もあった。その時、Bさん達が、Aさんの席を無いものとして考えようとしたのだ。私たちの誰も、何も言うことができなかった。

後日集まった時、Bさん達はまた同じような発言をした。さすがに私は苛立ち、

「ねえ、言っているいいことと悪いことがあるでしょ。さすがにそれはない。」

と言ってしまった。本当に頭にきてしまった。幸い、先生にその場をなだめられ、Bさん達と言い合いになることはなかった。しかし、それでよかったのだろうか。Bさん達は自分が発した言葉の重みをどれくらい理解しているのだろうか。

このことをきっかけに、私には何ができるかを考えた。現在も相談室に登校しているクラスメイトがいる。その子は、「教室でみんなと学習がしたい」と言っているそうだ。だから、その子が2学期から教室に入ってきやすい雰囲気を作りたい。私たちのクラスは、男女の仲はいい。しかし、日常生活で気になることがある。それは、友達に対する心無い発言である。「おいデブ、ジャンプすると壊れるぞ」さらに女子に向かって、「お前は男だから大丈夫だろ」という発言。お互いに笑っているが、どうなのだろう。何気なく言った言葉が相

手を傷つける。聞いている方も嫌な気持ちになる。このままでは、誰もが気持ち良く過ごすことはできないと思う。

みなさんは、友人やクラスメイト、家族に対して、「この人なら何を言ってもいい」「仲が良いから大丈夫」と思っていないだろうか。一方で、誰かに言われた言葉で傷ついたことはないだろうか。同じ言葉でもそれを発する人と受けとる人の違いで、意味合いが全く異なることもあるだろう。私は小学生の頃、喋り方がきついせいで、怒ってなくても、「そんなに怒らなくてもいいじゃん」などと言われてしまうことが多かった。だから今では、言葉使いや人との接し方には十分気をつけているつもりだ。それでも、私の発言で相手の表情が曇った時は「やってしまった」「つい」言ってしまったと…。つまり、人を傷つけてしまうときは無意識なのだ。そして後から後悔するのだ。

友達との何気ない会話、授業や学級会での発言、電話、メール、SNS。私たちは様々な場面で沢山の言葉を使う。しかし、それ故に慣れが出てしまう。言葉の重みというものを忘れかけてはいないだろうか。言葉は大切だ、とわかっていても、実際の会話で意識したことはあるだろうか。1年前のあの言葉は、今でも私の心に刺さったままだ。だから私は、人を傷つけず、幸せや支えになる言葉を使いたい。慣れや軽い気持ちで言葉を使ったりせず、伝える相手のこと、その向こう側にいる人のことを考えたい。自分が意図したことがどうしたらそのまま伝えられるのか。いつもそこまで考えていたら、くたびれてしまうかもしれない。それでも、私は、そのぐらい言葉を大切に扱える人になりたい。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

これから先、もっとインターネットが普及していくに伴って、文字で人とつながったり、やりとりをすることが増えていくと思います。顔や感情が読めない文字だからこそ、誰にも不快感を与えないように相手意識を忘れないようにしたいです。もし、自分の言動で相手を不快にさせてしまったとしても、それに気づき、失敗をくりかえさないように自ら成長できる人生にしていきたいです。



## 優良賞

### 地域を守るために

奥州市立東水沢中学校 3年

後藤 穂風 (ごとう・ほのか)

「これ、うちの畑で採れたの。遠慮しないでもらって。いっぱい採れたから。」

「ありがとうございます。」

私たちの住む地域にはたくさんの郷土文化があります。それらの文化を支えているのは地域に住む人たちの関わり合いや助け合いです。私は子供の頃から地域に助けられ、育まれてきました。日々の関わり合いだけでなく、地区の子供会ではスイカ割りや花火、夏祭りといった行事が催され、今でも思い出に残っています。

小学生のころ、私が家の鍵を忘れてしまい、家に入れなくなったことがありました。両親との連絡手段もなかったため途方に暮れて玄関に座りこんでいたのですが、そのとき、近所にすんでいるお年寄りが声をかけてくださったのです。「そんなところにいたら風邪引いてしまうよ。」その方がそのまま私を家に招き入れてくださったので、私は寒いなか一人で待たずにすみしました。いろいろな話をしていただき、とても楽しい時間をすごした記憶があります。

しかし、小学5年生の冬、新型コロナウイルスの流行が始まりました。緊急事態宣言が幾度となく発令され、地域で集まるなどできるはずもありません。はじめのうちは減っていく地域の活動に対して私は何の感情も抱いていませんでした。むしろ、面倒な集まりがなくなってラッキー、と思っていたくらいです。

大切なものは失ってから気づくといいますが、まさにそのとおりでした。それまであたり前にあった行事などの中止が相次ぎ、近所の方との会話までなくなってから、やっと自分が地域に支えられていたことに気づいたのです。1、2ヶ月もすると漠然とした不安を感じ、地域から孤立したような気さえました。そんなとき、母からこう言われました。「コロナの感染、増えてきたね。穂風は学校に通っている人々と関わるから、近所のお年寄りには近づかないようにしてね。」

もっともなことだと思います。しかし、その言

葉を聞いて私は切なくなりました。鍵を忘れたとき、家に上げて一緒に待ってくれたあのお年寄りと話せるのはいつになるのだろう。ニュースではしきりにコロナの収束には時間がかかると報じられていました。家族と暮らしている私でさえ孤立を感じるのに、一人暮らしの方やご高齢の方はどれだけ辛かったのでしょうか。流行してから3年がたった去年も、行事などはほとんどありませんでした。地区の子供会行事もこの3年間、ほぼゼロです。私は今の子供会のメンバーを知りません。どんな人が分からないため、いざというとき助け合うこともできません。地域のコミュニティーが失われると、地域の文化だけでなく安全も損なわれてしまうと思います。

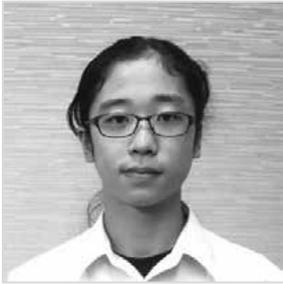
幸い、今年からはコロナも5類に移行して、子供会行事なども復活し始めました。ラジオ体操に向かう子供たちの声も聞こえます。地区で行われる運動会への参加を呼びかける連絡も入り、私も中学生リレーに出場しました。地区の方が懸命に旗を振って笑顔で応援して下さる姿に、全力を出そうと心から感じ、とても楽しい時間をすごすことができました。

コロナによって地域行事などが一度失われた今だからこそ、わたしたち中学生の自主的・積極的な地域コミュニティー参加が求められるのではないのでしょうか。わたしたちが意識を変えなければ、一度なくなってしまった行事はもとは戻りません。コロナ前にはまだ小さかった小学生にも、日々忙しくて時間のない大人にもできないことです。コロナ以前に行われていた行事や集まりに実際に参加した経験をもつ私たちが、地域活動をもとに戻そうという姿勢をもつことが重要だと思います。

今の小学生、そしてその先の子ども達にみんなで楽しむ経験をさせてあげたい。子供からお年寄りまで、皆が助け合って暮らせる地域を取り戻したい。まずは自分の住む地域に目を向け、自分に何ができるかを考えて行動を起こしてみませんか。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

地域のコミュニティーについて興味を持ったきっかけは、間違いなく新型コロナウイルスの流行です。作品にも書いたように、段々と失われていく地域の行事に対して焦りを覚えました。ネットなどが発達し、身近な人々との関わりが希薄になりつつある現代だからこそ、コロナが5類に移行した今のチャンスをしっかりつかみ、中学生が率先して行動を起こしていく必要があると考えています。



## 優良賞

### 誰かの笑顔のために

釜石市立釜石中学校 3年

大下 桜 雅 (おおした・おうが)

「お前女子みたいだな。」

これは、私が髪を伸ばし始めた時に、友達に言われた言葉でした。私は、この言葉を聞く度に、「こいつら、何にも知らないくせに本当にうざい。」と思っていました。

みなさんは、ヘアドネーションを知っていますか。私が、ヘアドネーションという言葉を知ったのは、小学3年生の時でした。そのきっかけとなったのは、あるテレビ番組でした。その番組の中に映し出された高校生の姿が今でも鮮明に頭の中に残っています。それは、髪の長い男子高校生の姿でした。

彼は、病気になって髪が抜けてしまった友達のために、自分にできることはないかと考え、調べた結果、ヘアドネーションを知り、髪を伸ばし始めたんだそうです。当時の私は、男子が髪が長いというイメージがなかったので、友達のために髪を伸ばすのがすごいなと感動しました。

その頃の私は、もともと短い髪が嫌いで、少し長い髪にしていました。かといって、今以上に髪を長くすると女子っぽいなと思っていたので、それ以上髪を伸ばしませんでした。でも、テレビでヘアドネーションという活動を知り、自分の髪が誰かの助けになるのなら、女子っぽいと馬鹿にされるかもしれないけれど、あの高校生のように髪を伸ばしてみようと決心しました。

しかし、髪を伸ばし始めてみると、問題点もあることに気がつきました。それは、男子が髪が長いことで、プールや温泉、トイレなどで、

「あれ、ここ女子の所だっけ。」

と言われたり、驚いた表情をされたりしたことです。また、友達からもからかわれたりして、その度に、悲しい気持ちになり、「やっぱり髪を切ろうかな。」と思ったこともありました。しかし、私の活動を応援してくれる友達が、

「誰かのために頑張れるってすごいね。」

と言ってくれて、心がとても軽くなり、もう少し頑張ろうという気持ちになることができました。

ヘアドネーションには、課題があります。美容師さんから聞いたところ、1人分のウィッグを作るには、30人から50人分の髪の束が必要なんだそうです。私はこれを聞いた時、「えっ。」と思いました。正直、私は、10人くらいの髪で完成するだろうと思っていたからです。また、この美容室でヘアドネーションをする人は、年間2、3人しかいないということも聞き、あまりの少なさにびっくりしました。

こんなにヘアドネーションをする人が少ないのは、ヘアドネーションが広く知られていないことと、髪を伸ばし続けることが大変だからなのではないかと思いました。私の友達も、ヘアドネーションをしようと髪を切りに行ったら美容師さんに4センチ足りないと言われ、ヘアドネーションを断念した人もいました。このように、ヘアドネーションをすることは、簡単なことではなく、2、3年髪を伸ばし続ける覚悟が必要なんだということに改めて思いました。

私は今、2回目のヘアドネーションをするため2年半、髪を伸ばし続けています。髪が長いことで髪を乾かすことが面倒くさかったり、夏の暑い時には、髪が肌にとわりついてうっとうしかったりして大変です。でも、自分が髪を伸ばし続けるのは、自分の髪で幸せになってくれる人が増えればいいなと思うからです。

ヘアドネーションは、自分1人の力で成り立つものではありません。多くの人の協力が必要です。ヘアドネーションを理解し、知る人や実行する人が増えてくることで、病気などで髪を失い困っている多くの人を笑顔にすることができるはずです。

あの日テレビで見た高校生のように、自分も誰かの笑顔を支えられる人になっていきたいと思っています。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

ヘアドネーションを知らない人に届けたいです。その理由は、ヘアドネーションを知っている人が少ないからです。この主張を通してヘアドネーションに少しでも興味をもってもらい、知ろうとする人や取り組んでみようという人が増えたらいいなと思っています。実践する人を増やすことで病気で困っている人を笑顔にする手助けができることが私の夢です。そのため、ヘアドネーションを知らない多くの人に届けたいです。



## 優良賞

### 私の一步

陸前高田市立高田東中学校 3年

伊 東 里咲子 (いとう・りさこ)

これはAさんの接客の様子です。交流事業として訪れた名古屋で職場体験をした時のことです。私が訪れたのは、「障がいを持つ弟の居場所を作りたい。」という社長さんの思いから、障がいを持つ方を積極的に雇用している会社でした。

Aさんは言葉を発することができません。しかし、彼女はメモを使いながら、とびっきりの笑顔で実に楽しそうにお客様と対話します。職場の人は勿論、初めていらしゃった方ともごく自然に笑顔で接する彼女の姿が私の目に、そして心に深く刻まれました。

交流事業が終わり、家に着いた私は、名古屋での学びについて家族に話しました。Aさんのことや、職場の雰囲気。そして何より障がいを持つ、持たないは関係なく、仲間として共に働くことの素晴らしさ。またそれが「普通」であるべきことを。

私の話に耳を傾けていた母が「『普通』かそれが一番難しいのかもしれないね。」と言いました。母が何を言いたかったのか、私は深く考えずにいました。

その後、私は日本語教室のボランティアを始めました。様々な国から陸前高田にやって来た方が、日本で「普通」に暮らすためのお手伝いができれば……。形は違いますが、名古屋での体験を生かし、自分にできることを実践していこうと思ったからです。日常会話を教えると、「OK」と笑顔で応えてもらう充実した日々を送っていました。

そんなある日、母が私に新聞を手渡しました。記事には7年前、ある障害者施設で45人が殺傷されたこと。そして、その遺族の苦しみや悲しみ

が載っていました。事件を憎む気持ち、周囲の無理解。何より障がい者と一括りにされる辛さ……。どれも初めて目にすることばかりでした。

母は「ひどいね。でも誰の心にも自分と違うことに反応する自分があるのかもしれない。」と、静かに言いました。「え、何を言っているの？」そう言いかけたその時、不意にAさんのことを思い出しました。私は決して偏見は持っていなかった。けれども、言葉を発することができないのに、頑張っているから私は彼女を凄いと思ったのだろうか。

あの日の彼女の笑顔が素敵だったのは、お客様を思っていたから。そこにいる誰もが当たり前のようにお互いを尊重しあっていたから。「普通」が一番難しい。その意味がわかったような気がしました。

誰にでもある違いに反応する心。だとするならば、私たちがすべきことは一体何なのでしょう。それは「相手を理解すること」なのだと思います。障がいの有無、国籍や言語にとらわれることなく、一人の人間として相手と向きあうことで見えてくるものがきっとあるはずですよ。

「誰もが笑顔で過ごせるっていいな。」あの日の時の私の思い。小さなことかもしれませんが、目の前にいる「あなた」を見つめ、笑顔でいられる「私」でいたいのです。共に歩む仲間として笑顔あふれる毎日を。これが私の第一歩です。

「普通」の暮らしのお手伝いではなく、「あなた」と共に歩む。その気持ちを心に刻み、私は一步を踏み出します。力強く、前へ。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

多様性と言われる時代ですが、「自分と違う」ことに反応してしまう自分があることも事実です。でも、だからこそ多くの方に、私の言葉を届けたいのです。世の中には誰一人同じ人はいません。「かけがえのない『あなた』を大切にしたい」と。そして、もう1つ。私に人を思うことの大切さを気づかせてくれたAさんや、職場の皆さんにも伝えたいのです。「皆さんの笑顔が、私を大きく成長させてくれました。ありがとうございます」と。



## 入賞

### 誇りをもって生きること

盛岡市立下橋中学校 3年  
佐々木 煌（ささき こう）

「以上で、第21回岩手県中学校総合文化祭の舞台発表部門を終了いたします。ありがとうございました。

眩いスポットライトの中、大きな拍手に包まれる会場。司会席に立つ私は、大きな満足感を感じていた。それはきっと終わった達成感だけではなく、あのステージがあったから。

中学校総合文化祭。合唱、吹奏楽、演劇など、様々な文化を中学生が発表する祭典。1年前、その司会という大役を、私は何とかやり遂げることができた。

そんな私には、3年生になった今でも忘れられないステージがある。それは、葛巻町立葛巻中学校が披露した「葛巻神楽」だ。

発表の数時間前、司会者と発表者とで打合せが行われる。そこで私は気になっていたことを聞いてみた。

「学校の文化に伝統芸能があるって珍しいですね。どんな思いで取り組んでいるのですか。」

「葛巻神楽の練習は、中学生だけでなく、高校生や地域の人たちが学校に来て教えてくれています。誰かではなく、私たち、そして、地域全体で伝統を守っていきたいと思っています。これから発表の場を増やしなが、多くの人に知ってもらいたいです。」

舞台裏で向き合っている、自分と同じくらいのはずの中学生が、とても大人に見えた。時代に流されず、自分の大切にしたいものを自信をもって守っていく。そんな精神に私は心打たれた。しかも、その背中に背負うのは、これまでの歴史の重みと誇りである。

間近で観たステージ。華やかな笛の音色や心地よい太鼓のリズム。そんな和の音楽と共に披露する激しい舞い。自信に満ちた顔。演舞中の輝かしい眼差し。瞳に宿る光に、今を全力で表現するだ

けではなく、伝統を受け継ぐ誇りが彼らを美しく煌かせていると感じた。

発表を観る前の私は、伝統芸能というものに、あまりよい印象をもっていなかった。「古くさい」「大変そう」「独特」。そんな自分の考えが恥ずかしくなるほど、目の前にいる中学生はかっこよかった。

近年、日本では、後継者不足や伝統離れが問題視されている。私のような固定観念にとらわれ、伝統芸能に関心をもつことすらしない人も多いのだろう。

しかし、よく考えてみると、伝統芸能を取り入れた日本の漫画やアニメが、世界から注目を集めている。また、岩手のさんさ踊りなど、祭りを通じて人気となった伝統芸能もある。実際に伝統芸能に触れたことで良さを感じたこともあるのではないだろうか。

次の担い手の誇りに感動すると共に、自分自身、胸を張って誇れるものはあるのか、問うてみた。ある。それは、報道委員長を務めていることだ。学校や世の中のことをみんなに分かりやすく、おもしろく伝える委員会。この委員会にやりがいや必要性を感じているし、中心となって動くことに私は誇りを感じる。

私は幸運だ。今回の司会の経験が、伝統芸能の担い手の誇りに気づく機会をくれた。そして、自分にも誇れるものがあると、自分自身と向き合うこともできた。この感動をみんなにも味わってほしい。だから、今日伝えたい。

あなたの誇りは何ですか。あの葛巻中学校の葛巻神楽のように、私にとっての報道委員長のよう、に、誇れるものはありますか。あなたが自分自身を誇れるものに出会えたとき、あなたの世界はもっと輝きに満ちていくはずです。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

自分にとって輝いたものを見つけ、それを突き詰めることで自信と誇りをもって生きていきたいです。受験を迎える私が進路などの不安でおしつぶされそうになったとき、私を支えてくれるのはきっと誇りでしょう。だから、私にとっての誇りや周囲の人たちの誇りを大切にし、自分も輝いて生きていきたいです。今回の発表で、みんなも誇りをもつことの大切さに気づいてもらえると嬉しいです。



## 入賞

### 「よく生きる」ということ

盛岡市立下小路中学校 3年

利部 遙磨 (かがぶ・はるま)

「おばあちゃん、もっと生きていてほしかったよ。もっとたくさん話したかったよ。でも、おばあちゃんは精一杯、生き切ったんだね。」私が中1のとき、7年間の闘病の末に大好きな祖母が亡くなりました。祖母の顔はとても穏やかでした。その顔を見て思ったのです。おばあちゃんはきっと「生き切った」のだと。

祖母の闘病生活は自分にとっても、とても深く、濃い年月でした。一度治ったはずのガンが再発し、もう治らないと宣告された日。ショックでした。祖母も家族も全員が落ち込みました。「昨日見えていた景色が今日は色が無くなって見える。桜を見るのも今年が最後かもなあ…」祖母の言葉を聞き、「死」というものに初めて直面したのです。しかし私たち家族は「いつまでも落ち込んでいられない。祖母を支えなければならない」と思い祖母が心の病気にならないように、残りの人生を少しでも良くしてあげられるようになるでもしようと決意しました。私は何度もお見舞いに行き、たくさん話しました。少しずつ明るくなっていく祖母に、何をやりたいかを聞き、「やりたいことリスト」も作りました。願いを叶えるために家族でがんばり、ひとつひとつ遂げていったのです。そのころの祖母は、再発後の辛そうな表情は無く、リストを叶えるたびに嬉しそうにしていた笑顔が今でも思い浮かびます。

祖母の死後に出逢った言葉があります。「よく生きることは、よく死ぬことでもある。」これは

宇野千代さんの言葉で、「一生懸命生きたものは、納得して死を受け入れることができる」という意味のようです。祖母は若い頃から頑張り屋だった、働きながら自分の母の闘病を支え、畑仕事もやり、家族の面倒もみてきたと。文字通り、祖母の生涯は「何事からも逃げずに一生懸命生きた人」でした、だからこそ、最期は穏やかに息を引き取ったのではないのでしょうか。まさしくこの言葉のように、「よく生きた」人だったからこそ…。

この辛い経験をしてから、これまで自分には無縁だった「自死」という言葉が耳に入るようになりました。なぜ自ら命を絶つのか、他に選択肢はなかったのか、以前の自分なら疑問に思うだけでしょう。しかし、今は違います。祖母がよく生きた、生き切ったと思えるのは、本人の前向きさだけでなく、周囲の支えが大きかったのではないか。それならば、苦しみを抱える人に寄り添い、支えることが、自死を防ぎ、よく生きることに繋がるのだと、私は確信します。

私の周囲にも、今まさに苦しみを抱えている人がいるかもしれません。独りで抱え込み、最悪の選択をするかもしれません。だからこそ、自分ももっと人に関わり、寄り添い、今を「よく生きる」ことの大切さを強く伝えていきたいのです。みんなが「よく生きる、そしてよく死ぬ」ために。

○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

みんなが「よく生きる」、「一生懸命生き切ること」ができるように、周りの人と深く関わり、支えてあげられるような人生を作り上げて行きたいです。



## 入賞

### 対等を生きる

滝沢市立一本木中学校 3年

横江 穂乃果 (よこえ・ほのか)

みなさんは自分の中に偏見があると感じたことはありますか。

私は弟と二人兄弟ですが、家で「女らしく」とか「男らしく」と言われたことはありません。だから、男女の「偏見」にとらわれている自分に気づいたとき、びっくりしました。

私の家は、酪農を家業として、乳牛を 80 頭飼っています。でも、私はこれまで牛の世話の手伝いはしたことがなかったのです。親から言われたわけではないのに、私は食事の準備や片付けを、弟は牛の餌運びや餌やり、買い物の重い荷物を運ぶなど、自然と「女のすること」「男のすること」を分担して手伝っていたのです。

私は知らず知らずのうちに、自分の中で、女の仕事、男の仕事と分けて考えていたことに気づきました。これくらいの偏見なら、みなさんの中にもあるかもしれません。

しかし、自立して生きていくとき、「女」や「男」に振り分けられなければならない仕事や作業はあるのでしょうか。社会に出て、一人暮らしをしたら、誰にとってもやらなければならないことがあります。それは、炊事、洗濯、掃除などです。これは男だからとやらなくても良いことでしょうか。

また、私が苦手だからと、父や弟に頼んでいた電球を変えたり、電化製品の操作方法を調べたりすることは、女だからとできなくても良いことでしょうか。

これらはすべて、私達が「人間らしく」生きて

いくために必要なことなのです。もし、それらをやらずに済まそうとし、または誰かにやらせようとするなら、自立した一人の人間として生きていけないということです。

私は社会人として働くとき、人間として対等でいたい。女だからできないと思われたくない。女や男ではなく、人でありたい。それは暮らしてもそうだし、仕事でもそう。考え方も。そういう生き方をしていきたい。

私は変わろうと思いました。そして、今までやろうとも思っていなかった牛の世話をやってみました。自分の中に差別を抱えたまま生きていきたくない。牛舎に入ったとき、牛の大きさに圧を感じ、「怖い」と感じました。でも両親の働く姿を見て、チャレンジしようと思いました。暑い牛舎の中での作業。改めて両親の大変さを感じ、尊敬の気持ちがわきました。力になりたいと思いました。

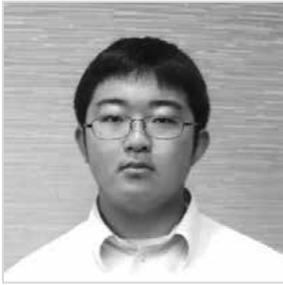
私はこれから、一人の人間として、家族の一員として、「女」という立場を超えて、生きていきます。

そして、将来、人の役に立ち、やって良かったと思える仕事を見つけ、「女だから」という意識ではなく、対等な社会の中で自立した人間として、悔いのないよう生きていきます。

みなさんも、自分の中の偏見をなくし、対等な社会を生きていきませんか。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私は、人間として対等な社会で生きていきたい。男女の性差で差別されることのない対等な社会の中で、自立した人間として生きていきたい。これから私は、この社会を生きている私と同じ考えをもつ人と、自分の中の偏見に気づける人、またそれを正そうとする人と手を携えて人生を生きていきたい。そして、自分の中の偏見に気づいていない人にも気づいてもらえるような生き方をしたい。



## 入賞

### 僕が守りたいもの

葛巻町立小屋瀬中学校 3年

千葉 瑛太 (ちば・えいた)

みなさんは、酪農にどんなイメージを持っていますか。約40年前、祖父が北上山系開発に参加し、山を開いて牛舎を建てました。そして、牛がのびのびと過ごすことを理想とし、県内でも数少ない、牛を柵に縛り付けない飼育方法、フリーストールに挑戦しました。動き回る牛がかわいくて、僕は小さい頃からよく牛舎に行っていました。

成長するにつれて家族から仕事の話が増えました。残念ながらいい話ばかりではありません。きつい、汚い、危険、の3Kと呼ばれていることや人材不足、また、金銭的にきつい部分があるということも…。僕がやりたい「酪農」という仕事の現実を知りました。

確かにきつい、汚い、危険、はその通りです。人材不足の原因もこの3Kを知り、やりたくないと感じる人が多いからだと思います。それでも作業の一つ一つにやりがいがあります。今、僕は毎日牛舎にいきバケツにえさを詰め、パートさんが休みの週2回は、1時間以上かけ牛床、牛のベッドの掃除に入っています。しかし、苦ではありません。掃除にいくと猫や犬のようにくっついてくる牛(こ)がいます。それが、とてもかわいいのです。知っていましたか？牛は優しい生き物なのです。その上美味しい牛乳を作り、私たちの食生活を支えています。

祖父の跡を継いだ父は3年前搾乳ロボットを導入しました。それにより約120頭の24時間自動

搾乳が可能になりました。乳を搾って欲しい牛は自分で搾乳ロボットの中に入ります。自動で乳頭を消毒してもらい、自動で搾乳機がつき、搾乳開始です。終了すると、乳頭を消毒してもらい、牛床へ戻っていきます。乳量、健康状態等はパソコンやスマホで一目瞭然。こんなことができるんだ…。驚きました。いまやロボットのおかげで約100頭の牛をほぼ母ひとりで管理しています。牛が好きのように過ごし、人の負担も減りました。

このように近年の酪農は、社会のIT化と同様に進化しています。ただ牛にも性格や性質があり、搾乳ロボットが合わない牛もいます。そんな牛は、昔から行われている人の手で搾乳機をつける方法で行います。授かった命、一頭一頭の個性を大切にすることは忘れてたくありません、僕は、牛たちの働きに応えたいと思います。また、酪農は、米や野菜作りに向かない土地を有効に使うことができます。父から「健康な牛を育てるためには、土地の管理をしっかりする。土地を守ることが地域を守ること、また国土を守ることにつながる」ということも教わりました。僕は、父の跡を継ぎ、さらに新しいロボットや機械を導入し、人にも牛にもやさしいスタイルで、酪農を守っていきたいです。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

酪農にあまり興味がない方やあまり良く思っていない方に届けたいです。3K(きつい、汚い、危険)のイメージをもち、そこだけを見ている人が多いと思います。もっと広い視野で見てもらいそのイメージをなくしてほしいと思います。また、この作品で酪農のことをもっと知ってもらい、今までと少し違った考えをもってもらいたいと思います。



## 入賞

### 「多様性」を超えて

花巻市立湯本中学校 3年

千葉 久遠 (ちば・くおん)

男子は青や黒が好きで、力強い。女子は赤やピンクが好きで、心優しくまじめ。当てはまる人は、確かにいるでしょう。でも、当てはまらない人も少なくありません。

「そんなことで男女分けしないから、大丈夫。」と思うかもしれませんが、果たしてそうなのか、今一度振り返ってもらいたいです。

私は青が好きです。幼い頃から身につけるものは青いものばかり。髪型も短髪で、活発な服が好きでした。

6歳の誕生日のことです。ワクワクしながらお母さんとケーキ屋さんへ行き、ショーケースに並ぶ色とりどりのケーキに心躍らせ、私はチョコレートケーキを選びました。ネームプレートをつけてもらうときでした。ニコニコと笑顔の店員さんが言いました。

「お子さんの名前こちらで、〇〇くんによろしいですね。」

その瞬間、浮き立っていた私の心は見る間にしぼんでいきました。自分でも、青い帽子をかぶっていて、短髪だったから店員さんが間違えたのだと分かりました。しかし、

「6歳になって、ちょっとお姉さんになるのだ。」と決意していた当時の私の心に、その言葉は深く突き刺さりました。

私はこのとき、人は見た目で判断するものだと知りました。初めて会う人は、持っている情報が見た目しかないので、そこで決めつけてしまう気持ちも分かります。でも、決めつけられた側はどう思うのでしょうか。笑いながら訂正できる人もいれば、私のようにとても悲しくなる人もいます。

また、学校でちょっとした仕事をするときのことです。

「ピアノ運ぶから、男子手伝って！」

「卒業式の飾り付け、女子お願いね。」

男子は力作業、女子は細かい作業が割り当てられることが多いです。体の構造が異なり得意分野が違うことが理由でしょうが、これも個人差があり

ます。力持ちの女子もいれば、手先の器用な男子もいます。逆に細かい作業が苦手な女子もいれば、体力にそれほど自信のない男子もいるでしょう。

「男女という性別上の括りはあっても、人それぞれ違う」と理解したつもりでいながら、無意識のうちに既成の概念を当てはめてしまっている現実があります。

昨年、日本は女性の社会進出の進捗度が、先進国の中で最低レベルの順位を記録しました。また、多くの企業で男性の育児休暇が可能となりましたが、実際に育児をとる男性はまだ少ないということです。これらの背景にも、無意識下の男女の区別が深く関係していると思います。

男性はこうである。女性はこうしなければいけない。と定まっているわけではないのにこれほどまでに深く、人々の頭に刷り込まれています。そしてこれは年代が上の人ほど顕著であるように思います。

「女の子なのだから、家事はできなくちゃ。」

「男の子なのだから、泣いちゃだめでしょ。」

確かに昔の常識はそうだったのかもしれませんが、今や時代はジェンダーレス。男性がスカートをはいてもいいし、女性がネクタイにズボンで働いていい。そして、それを批難したり、差別したりするのではなく、一人の人間として尊重しあえることが大切なのだと思います。

これは、ジェンダーだけではありません。障がいを持つ人・持たない人、外国籍の人・日本国籍の人。さまざまな人がいますが、みんな同じ人間です。「障がいを持つ人」「外国の人」と、一括りにするのではなく、一人一人を、個性をみることが大切です。このことが世界中の人に理解され、当たり前となったときに、「多様性」という言葉もいらなくなるでしょう。そのような世界を実現するための第一歩として、私はまず自分の無意識下の区別をなくし、ジェンダーレスを身近なところから実現していきたいと思っています。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

私が作文を書くにあたり社会にむけて何を伝えたいか考えた際に、私も実際に体験したことのある男女の固定されたイメージの押しつけがパッと頭に浮かびました。近年ジェンダーレスの考えが広まっていますが、どうしても男女の固定されたイメージが頭に染みついて、差別とまではいかずとも「男性はこうで、女性はこうだ」と性別で一括りにして物事を考えてしまうことがあります。そこで「自分もそうしたことがないか」と少し振り返ってもらえるような作文を書きたいと思いました。



## 入賞

### 心の土台づくり

一関市立一関中学校 3年

近江 那奈子 (おうみ・ななこ)

挑戦するのをためらって、かえって後悔する気持ちになったこと、あなたにはありませんか。私にはあります。

私が小学4年生の時、独唱オーディションがありました。「楽しそう、やってみたい」そう思った私は、そのオーディションに立候補して練習を始めました。今までやってきた練習を振り返り、自分ならできると信じて歌いました。結果は落選。悔しくて、泣きそうになるのを必死にこらえました。それから1年後、「独唱をやってみたい人は後で先生のところに来てください。」というお知らせがありました。「やりたい」という気持ちが一瞬間に浮かびましたが、すぐに「どうせまた落ちる」「失敗するのが怖い」という言葉で頭がいっぱいになり、立候補するのをやめました。でも、オーディションで選ばれた子が練習している姿を見て、「私もあんなふうに歌いたかった」「私も立候補すればよかった」という後悔の気持ちでいっぱいになりました。

この経験を通して、「やっぱりやっておけばよかった」と後悔しても遅いと、私は気づかされました。やりたいと思ったら挑戦しないと、チャンスはどんどんなくなっていくます。できなくて後悔するのも自分です。そして、その後悔の思いは、いつまでも自分自身につきまといます。

これに対して、「挑戦して失敗したら、やっぱりやらなければよかったと後悔するのではないか」と考える人もいるかもしれません。挑戦して成功すると自信になります。失敗してもそこから学ぶことで成長できると思いますし、いろいろな経験をするのが大切だと私は考えます。何より、自分の意志で決めた挑戦であれば、失敗しても言い

訳ができなくなるので、やはり自分自身の成長に繋がるのではないのでしょうか。

私がそう考えるきっかけになったのは、空手の先生の言葉でした。私は、小学5年生の時から空手を習っています。空手の先生はよく、「心の土台づくり」という言葉を口にします。どんなに強くても、「心の土台」がしっかりしていなければだめなのだそうです。あるとき、「心の土台づくり」の意味を先生に聞いたところ、「周りに左右されないで、自分の心をどっしりと置くこと。そこから木が生長するように、さまざまなことに挑戦して、人として大きく成長していくこと。それが心の土台づくりなんだ」と教えてくれました。

最近では、新型コロナでの制限がなくなり、今までできなかったことができるようになりました。このように、私たちを取り巻く状況は、日々、変わっています。そういう社会を生きていくうえで、特に若い私たちには、周りに流されないで自分の意志で決めること、挑戦することで人として成長できるということを先生は教えてくれたのだと思います。

今しか挑戦できないことが私たちにはあるはずですが。また、この3年間、本当は挑戦したかったことが皆さんにもあったのではないのでしょうか。

あの後悔した独唱オーディションから早5年。私は、再度、独唱に挑戦することにしました。結果はどうなるか分かりません。でも、自分の意志で決め、挑戦することですから、悔いのないように取り組んでいくつもりです。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

挑戦するのをためらっている人に届けたいです。私は挑戦しなかったせいで、今でも後悔する気持ちが残っています。こんな経験を私はもうしたくないし、みんなにもしてほしくないです。だから、この主張を聞いて少しでも「挑戦してみようかな」と思ってくれる人が増えたら嬉しいです。



## 入賞

### 寄り添いたい

一関市立藤沢中学校 3年

伊 東 洸 璃 (いとう・ひかり)

私は中学3年生。進路について考える時期になった。どんな仕事に就きたい？どんな生き方をしたい？そう聞かれてもなかなか答えられない。でも、自分の将来について考えると、大好きな祖父のことを思い出す。

私の祖父は、毎日昼間は畑仕事に行き、夜はお酒を飲む、パワフルで元気な人だった。そんな祖父は、8年前脳梗塞で亡くなった。

初めて脳梗塞の症状を目の当たりにしたのは小学校1年生の時。私の迎えに来て、車を運転しようとした時、急に手が震え出し、呂律が回らなくなった。その日から祖父の闘病生活が始まった。入院中の祖父のもとに私は何度か足を運んだが、祖父の姿はみるみるうちに別人のようになっていった。話すことができず、あいうえお表の文字をたどりながら懸命に話そうとする姿。薬のせいなのかどんどんやせ細っていく姿。私はその姿を受け止めきれず、両親の後ろに隠れてばかり。祖父のあの姿を見るのは、正直怖かった。胸が痛くなった。祖父は数か月の闘病の末、亡くなった。人を亡くすという体験をこの時初めてした。

もっと祖父に対して私なりにできることがあったのではないか。いつしかそう思うようになった。私には病気を治すことも、命を救うこともできない。でも、病気が発覚し、弱っていく祖父の姿に怖がったりしないで、そばにいて接してあげることならできたのではないか。

祖父が苦しんでいるとき、祖父のそばにいたのは病院の看護師さんと、普段看護師の仕事をしている母だった。看護師の仕事に興味を持ち始めた。

母に看護師の仕事について聞いた。看護師という仕事は、病気を治すお手伝いをする仕事。それだけでなく、患者さんに寄り添う仕事でもあると

教えてくれた。患者さんと過ごす時間が長いからこそやりがいも多いそうだ。患者さんが病氣と闘う姿を見るのは辛いと思う。だからこそ、そんな仕事をやりとげる母も、看護師さんも、カッコイイと思ったしすごいと思った。

私も母のように、弱っている人に対してより良い対応をできる人になりたい。看護師さんのように、患者さんとたくさんコミュニケーションをとって患者さんを支えたい。自分の目指す生き方が、少しはっきりしてきた。

どんな生き方をしたいですか？今の私はこう答える。そばにいる、寄り添うという生き方をしたい。そばにいる・寄り添うということは、声をかけたり、手伝ったり、話を聞いたりすることだと思う。この生き方を実現できる職業が看護師だ。看護師になって、大事な人のそばにいて、心に寄り添って、決して寂しい思いを抱かせないような、そんな生き方をしたい。これが、今の私の目指す生き方だ。

これを叶えるためには、話し手の目を見て話を聞き、相手の気持ちを感じ取ることができる、聞き上手にならないといけない。また、地域の人や周りの人と関わる機会を増やして人と上手に接することができるようにならないといけない。看護師になるには様々な専門知識が必要であるため、今から学習を頑張らないといけない。

今の自分に足りないことはたくさんある。でも、一つ一つ身に付けていくことが、祖父の死を無駄にしないということにもなると思う。患者さんに寄り添う看護師になるという目標に今から一歩ずつ、近づいていきたい。

#### ○ この作品を書いたきっかけはなんですか？

私は小学校1年生で大好きな祖父を亡くしました。8年も前の出来事ですが、今でも鮮明に覚えています。大きくなるにつれて、もっと私なりにできることがあったのではないか？という葛藤が生まれ、葛藤の先で考えたことを、わたしの主張として書きました。この主張は、将来看護師として働く自分へのエールでもあります。看護師の道を歩む中で辛い時や苦しい時は、この主張を通して自分自身を励ましたいです。



## 入賞

### 命の可能性

遠野市立遠野東中学校 3年

菊池 璃子(きくち・りこ)

「璃子ならできるよ。」

「どんな苦しいことだって、乗り越えられないことはないんだよ。」

と祖母はいつも笑顔で私に言ってくれた。

祖母は、太平洋戦争終戦の年に満州から帰国した。70万人とも100万人以上とも言われている引き揚げ者の一人であった。

日本を目指し、大混乱の中の帰国。中には将来を悲観し、集団自決を選択した人たちや我が子を手放し、置いてこなければならなかった人もいたという。そんな時代に私の祖母がいたのだ。

祖母は当時5歳。中国で生まれた2歳の弟を連れ、

「周りの大人について行きなさい。」

と母親に繰り返し言われ、二人で日本を目指したそうだ。自分のこともままならぬ5歳の女の子が、2歳の弟の手を離さないように握り、恐怖の中を何日も何日も船に揺られた。引き揚げ船がついたのは北海道。各地を転々とし、盛岡に住み落ち着いたそうだ。

亡くなった後に、祖母の書いた作文を読み戦争は遠い世界のことと思っていたが、それは、身近なことであると気づかされ、祖母の壮絶な人生を知ることにもなった。

私は、それまで祖母の辛い戦争体験を知らなかった。しかし、私は、祖母がいつも人に寄り添い声を掛け笑顔を絶やさなかった人であることは知っている。私は、そんな祖母が大好きだった。

死と隣り合わせの体験の中で5歳の少女の目に何が映り、何が心に刻まれていったのだろうか。想像するだけでも苦しくなる。祖母から聞くことはもうできない。

身近な人の死。こんなにも辛いものなのか。棺の中の祖母の顔にそっとふれてみた。祖母は冷たかった。でも、不思議なことに私は、祖母の温もりが伝わってくるような気がした。

5歳の少女が帰国したら、命のバトンは繋

がらなかった。そして、私は、今ここに存在していなかった。

私は、将来、医療従事者として働きたいと思っている。日々の生活の中で、傷つき苦しい思いをしている人たちの心と体を救い誰もが、人間らしく生活ができるように支える仕事をしたいと思っている。

「どんな苦しいことだって乗り越えられないことはないんだよ。」

といつも私を支えてくれた言葉。それは、78年前の戦火を生き抜いた5歳の少女からのメッセージ。まさしく、私の生きる道標だ。

私は、祖母の人生から、命は、当たり前の中での存在するのではないということ学んだ。命を守り、命を活かすからこそ存在していくと思う。

「戦争」「自殺」「殺人」この言葉がニュースにならない日はない。様々な理由から、自らの命を絶つ人がいる。人の命を奪う人がいる。国が戦争をし、望みもしない人生。

「死にたい」という言葉を耳にすることもある。私は、そのたびに胸がギュッと締め付けられる。

『生きる』ということは、人によって様々な受け止め方があるのかもしれない。しかし全てが大切な命であり、価値の無い命なんて一つもない。

祖母が、『命の可能性』を信じて生き抜いてくれたことを私は誇りに思う。

人間は、辛いことを経験しても人生を切り開くことができること。『命の可能性』を信じ生き抜くことが大切であるということを多くの人に伝えたい。

私は、78年前の5歳の少女が必死に繋いでくれた命を大切に受け継ぐ。そして、祖母のように逞しく大地に根をはって生きていこうと思う。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

私は去年の秋祖母が亡くなったことにより、初めて身近な人の死というものを体験しました。祖母の死や戦争体験を知ったのをきっかけとし、私の命に対する考えは変化していきました。そして社会に目を向けてみると、私と同世代の方々が様々な理由で自殺をしているということが分かりました。生きていく中で自信が無くなって、どんどん自分を嫌ったり、他社に嫌悪を抱くことがあると思います。命とは何かと考えたことがある人や自分自身の価値について悩んでいる人に届けたいです。



## 入賞

### 長い歴史の中で

宮古市立津軽石中学校 3年

齊藤好花(さいとう・このか)

「孤独だ。私には居場所がない。」  
と、家族にゆがみを感じてから私は思っていた。小学校には、「ウザイ、キモイ。」と言うクラスメートの言葉で、足が向かなかった。私は、家でも学校でも居場所がなかった。

中学校に入る前に母と引っ越しをした。新しいクラスメートは、皆小学校からの持ち上がりで、異端児の私は、クラスや学校になじめず、目標も、打ち込めるものもなかった。

そんななか、私は津軽石地区に伝わる法の脇獅子舞に出会った。獅子舞は、先祖供養や豊作を祈る150年以上前から伝わる舞である。学校や地域で練習し、文化祭で発表している。

郷土芸能練習が始まると、先輩は

「ここはもっと腰をおろして。」

「おなかの底から声を出して。」

と容赦なく私たちに指導した。踊りを覚えるのは大変だった。小学校の頃に「津軽石さんさ」や「赤前ソーラン」などを踊ってきたクラスメートは、踊りの感覚を持っているのか、練習を重ねるうちに上手くなっていった。経験のない私は、ついていくのがやっとだった。しかし、みんなと同じように教えられ、みんなで舞を作り上げていくことが楽しかった。一つになって踊り終えたとき、本当にこの地域の一員になったような気がして嬉しかった。

2011年の東日本大震災の大津波で、私たちの街は大きな被害を受けた。郷土芸能の太鼓、衣装、獅子頭も流された。その年は、郷土芸能どころではなかった。翌年当時の生徒会長が、

「このままだとなくなってしまう。今年は私たちの手で復活させたい。」

と全校生徒に訴えた。そして、自分たちで衣装や獅子頭を作り、1年生の時に学んだことを思い出

しながら後輩に伝えた。一度途絶えたものを復活させ、創り上げることは大変だったに違いない。

当

時の先輩たちは、「地域に残したい、震災でなくなったものは多いけれど、この郷土芸能はなくしてはいけない。」という強い決意でつなげてきたのだと思う。毎年全校生徒は、この出来事を道徳資料で学び、練習に臨んだ。このようにして、先輩たちの思いを受け継いできたのだ。だから練習も、「伝えよう。良いものを作り上げよう。」として、真剣な態度で、気迫があった。

今年「北上・みちのく芸能祭り」に初めて参加した。大きな舞台での舞に緊張した。舞終わった後に頭を取ると、

「えー中学生が躍っていたんだ。」

と、驚かれた。

「私も津軽石に住んでいたけれど、震災で離れてしまった。久しぶりに舞を見て、故郷のことを思い出したよ。」

と、涙を流している人もいた。どこに住んでいても故郷を思う気持ちは変わらないと思った。

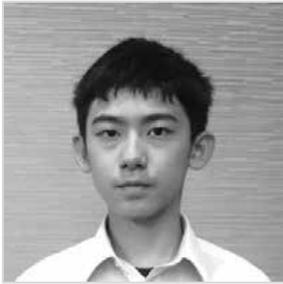
150年という長い間、豊作を願い、お祭りで舞い、地域の中で大切に継承されてきた法の脇獅子舞。飢饉や津波のような自然災害、戦争、感染症の拡大など、苦しい時代の中でも、人々は、喜び怒り哀しみ楽しみ、幸せを願ってきた。私はその長い歴史の中で生きる一員になった気がした。

日本には素晴らしい文化がたくさんある。「文化が失われるということは、その国がなくなることの意味している。」という人もいる。私たちの郷土芸能は、地域の宝であり、誇りである。そして、その文化を継承していくのは私たちだ。故郷を大切にしたい。故郷に住む人々を大切にしたい。

今、私の居場所はここにある。

#### ○ この主張をどんな人に届けたいですか？

今年、本校の文化祭郷土芸能獅子舞グループが、古典の日文化基金賞を受賞いたしました。この賞は長い歴史の中で、地域の方々や先輩たちが、東日本大震災等乗り越えて「思い」をもって継承してきた証だと思っております。私たちも大切な地域の宝、誇りとして次につなげていきたいと思っております。この主張を、郷土芸能の仲間、故郷を大切にしている人々に届けたいと思っております。



## 入賞

### ないもの探しの先へ

岩泉町立小川中学校 2年

竹花大和 (たけはな・やまと)

皆さんは、頭の中にいくつの世界がありますか？これは、一人で楽しめる空間です。目に見えるものではなく、外からの情報が聞こえるものでもありません。私の中では、その世界は限りなく広がっていて、カードであったり、怪獣のおもちゃであったり、レゴのブロックであったり。それらが生きてるように様々なドラマを繰り広げます。テレビのチャンネルのように、コロコロ場面と登場人物を変えることができます。数日後にアニメのように続編を作ることも簡単です。その世界は、自分の中のストーリー作りであり、この13年間、一度も飽きたことのない私の遊び方です。

ただ、この遊び方が他の友達とは違い、そして、ひとり言をブツブツ言っているだけのように見えるということに気付いたのは、少し前のことです。私は、小学校5年生の春にADHD（注意欠陥多動性障害）とASD（自閉スペクトラム症）と診断されました。思い返せば小さい頃から、苦手なことは沢山あったように思います。

食えることが大好きです。しかし、嫌いなものが多いです。音楽が大好きです。しかし、大きな音や予測できない音に恐怖を感じます。動物が好きです。しかし、ほとんど触れることができません。学校が好きです。しかし、忘れ物も日常茶飯事です。覚えておかないと、と心では思っていますが、すぐに別のことに気を取られて忘れてしまいます。授業が好きです。しかし、以前は黒板の文字をノートに書きながら先生の言っていることを理解することは、私にとっては難しいことでした。しかも、説明をするときは、言葉が文章になって出てきませんでした。空手を習っていますが、以前は姿勢を保つことと相手と接触する時の痛みは、耐えられないほどでした。今でも注射をするときは、恐怖で涙がでてしまい、受けることができません。他の人から見たら、おそらく私は「弱虫」という言葉がぴったりだったのではないかと思います。

そんな時、病院の先生が母に「視覚・聴覚・嗅

覚・味覚・触覚（皮膚感覚）が人の10倍敏感だと思ってください」と伝えてくれました。確かに言われてみると苦手なもの多くは触感や刺激を感じるものでした。なんだか「弱虫」な自分にきちんと理由ができて、安心したことを覚えていました。

それから少し、自分の病気のことをインターネットで検索してみました。症状は、見事に私の毎日を言い当てているものばかりでした。何のために毎朝、薬を飲んでいるのかも、やっと理解できたのと同時に、「生きづらさ」という単語が目に残りました。誰と比べての「生きづらさ」なのかはわかりませんが、他の人より出来ないことが多い。と書いてあるようにみえました。しかし、私は自分しか知りません。どうやっても他の誰かになることはありません。私は出来ないことが多いので、それらを簡単にこなしてしまう友人たちを毎日「すごいな！」と思います。それを母に話すと「人の良いところを見つけられるのは、大和の特技だね。」と言われます。祖母からは「大和は優しい心を持っているね」とも。障害があることで私は、かけがえのない長所を持っているのではないかと思うようになりました。頭の中で空想する能力も、関心があることについての知識の多さも、黒板は右手、ホワイトボードは左手で文字を書くことも。私の中では普通のことです。

もしかしたら、私が「すごい！」と思っている人たちも、みんなそれぞれ苦手なことも、自分なりに日々努力して成長しているのかもしれない。そう思った時に私は私らしく生きていくことで、自分の道が開けるのではないかと気づきました。私の家族の中では、障害は「障害」ではなく「個性」だ。が合言葉です。その個性を磨くための努力をしていくことが大切なのだ。よし！まずは「絶対に出来ない！」って言うのを止めてみることから始めてみようと思います。そしたらほら、この夏やっとなり、下りのエスカレーターに怖がらずに乗ることができました。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

自分のしょうがいが悪いものだけとせず、自分の個性をのばしていき、苦手なことをこくふくしたり、チャレンジしてみたりして、自分のよいところを増やし悪いところもうけいれながら改善していきたいです。



## 入賞

### どこへ行っても

久慈市立山形中学校 3年

下 館 春 稀 (しもだて・はるき)

「ヨシター！」1 トンもある牛の綱を力強く引く勢子の掛け声。「いいぞ！」「頑張れ、頑張れ」「そらいけー！」会場からは、大きな歓声と拍子が沸き起こる。牛は目を充血させてにらみ合い、どろを跳ね上げながら、激しく角をぶつけ合わせる。いつもは静かな地域もこの日ばかりは、熱気であふれかえる。

私の住んでいる地域で行われている平庭闘牛は、昭和 58 年から東北唯一の闘牛として、始まり、迫力満点の牛の闘いを間近で見られるということで、この日は大きなにぎわいを見せます。

しかし、大きな盛り上がりを見せるのは、この祭りが開催される日の年に 4 日。大輪の花火が夜空をパッと鮮やかに照らし終わったあと、静かに消えてゆくように、私の地域からも祭りが終わるとそのにぎわいは寂しく、散っていきます。

私の住む山形町は、いわゆる過疎地と呼ばれる地域です。私の通っている山形中学校も 2 年後に入学する新入生はわずか 4 名という状況です。人がいなくなると、町からは明かりが 1 つまた 1 つと消えていき、明るい光を求めてますます人がなくなってしまいます。きっと多くの地方が抱えている問題ではないでしょうか。その状況に歯止めをかけようと、山形町の方々は様々な取り組みを行っています。闘牛祭りをはじめ、伝統食であるまめぶの普及活動、しらかば植樹……。山形町の豊かな自然や町の魅力を多くの人に知ってもらおうと、大切に伝えています。私も山形について調べていくうちに、故郷の自然や伝統の素晴らしさを改めて感じることができました。それと同時に、もうひとつ大切なことに気がきました。それは、そこで暮らす人の故郷に対する思いです。総合的な学習の時間の中で、これからの山形について考える「山形ビジョン」という取り組みを行いました。その中で一つのアンケート結果を見たとき、私はなんだか胸が温かくなりました。「山形町に住み続けたい」「いずれ山形に戻ってきたい」と

答えた人が実に半数以上。また、地域学で闘牛大会を盛り上げる勢子さんからお話を伺ったときも、「やはり若い人たちに頑張ってもらいたい」「生産者を支えるためにも、文化をこれからも継いでほしい」と話していました。

これから先も人口が減り、もっと過疎化が進むかもしれません。日々、世の中は変化し続けます。2006 年に山形村が久慈市山形町に変わったように、自分が生まれ育った故郷の名前も変わったり、なくなったりすることもあるかもしれません。けれど、私のふるさとが変わることはありません。暑さに負けず、虫取り網をもって冒険した白樺林。真っ白な雪原で、元気にそり遊びをした平庭の山。学校が終わり、バスから降りると、「おかえり。」と、畑仕事をしながら温かく迎えてくれる近所のおばあちゃん。

そんな思い出や、そこで出会った多くの人の温かい思いが溢れている場所こそが、ふるさとだと思います。ふるさとを離れても、それはふるさとを捨てることではありません。どこにいても何年たっても、その思いを心の深いところに大切にしまっていること。それこそが、ふるさとを守ることに繋がるのだと思います。

地域の方々、これからも、私たちを守り育ててください。そしてもっとふるさとについて教えてください。私たちは、きっとその思いを繋ぎ、広げていきます。

そして、中学生の皆さん、次は私達の番です。私達中学生はまだ、10 数年しか、その地で生きていません。しかし、「自分のふるさとはここだ。」と胸を張って言えるように、地域を知り、人の温かさに触れ、ふるさとに思いを寄せること。それが、今を、そしてこれから生きていく私達ができることです。将来、どこにいても、私の大好きなふるさとはここにあります。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

私は、ふるさとをこれからも愛し、ふるさとに愛されるような人生を送りたいです。私は、自分が生まれ育った町が大好きです。そのため、私は将来全力で町おこしをしている地域の方々のようになりたいです。そして、この町を、次の世代、そのまた次の世代へとつないでいきます。伝統文化とともに、地域を愛する人たちの思いもせて。

## 審査委員長講評

(株)岩手日報社論説委員会委員長 四戸 聡

本日の講評を述べさせていただきます。

長時間の大会、大変お疲れさまでした。地区の大会とは違う緊張感があったと思いますが、皆さん堂々としていて相当練習をして臨んだことが分かりました。盛岡・河南中学校の生徒さんをはじめ、保護者の方、来賓の方、審査委員を含め、皆さんの考えはしっかりと伝わったと思います。

最優秀賞の千田ソフィアさんは、ウクライナ人のお母さんがいて、現地ではおばあさんが暮らしていて、自分もウクライナに行ったことがあるということから、今起きている戦争をとっても身近に、自分事として受け止めている様子が切迫感とともに伝わってきました。「心に平和の砦を築く」というユネスコ憲章の理念に発表が最終的にたどり着く過程も説得力がありました。自分ができることが何かを考え、その思いを実際にチャリティーのような行動に移しているところも素晴らしいと思いました。

優秀賞の田口悠就さんは国技である相撲を続けていくという決意が、発表全体を通してみなぎっていたと思います。アナウンサーの審査委員の方からは、場面に応じて声色をうまく使っていて大変素晴らしいという評価がありました。

伊藤夢亜さんは言葉による行き違いやトラブルの経験から、言葉の特性を理解し、使う際に心がけるべきことを具体的に話していました。「(自分自身の)感情と発表の息遣いがしっかり一致していた」という評価が聞かれました。

全体を見ると、障害や戦争、地域への愛着などテーマが多岐に渡っていました。酪農を通じた家業に対する誇り、ジェンダー、無意識の偏見なども興味深く聞きました。改めて皆さんが日々いろいろなことを考えながら中学生を送っていることを実感しました。

命や死に関する発表も印象深かったです。難しいテーマに挑戦し、最後までしっかり意見がまとめられていると感じました。

家庭とか学校、地域社会、そういったものとの関わりの中で、自分でテーマを設定し、思索を深め、文章にして大勢の前で発表することはとても難しい作業です。取り組みそのものが素晴らしいものです。何より皆さんが活動を通して自分がどんな風になりたいか、どのように人と接していきたいか、将来こんな人になりたい、どんな仕事に就きたいとか、そういったことを誰かに強制されるのではなく、自分自身でじっくりと考える機会を得たこと自体が貴重です。現代は人工知能(AI)のようにパソコンに何かを打ち込むと簡単に答えが出てくるような時代ですが、まずは自分の頭で考えることが重要です。今回の主張で得た財産はこれからの中学校生活、その先の皆さんの人生の糧となるでしょう。

発表の中には、表に出すことに勇気を振り絞ったと考えられる内容もありました。どこまで詳しく話したらいいか、たくさん考えて葛藤や悩みもあったと思います。気持ちは聞いていた人たちに確かに届いたはずですが、入賞の有無に限らず高く評価できる発表が多かった大会でした。

最後に少し気になったことを挙げると、表現の部分で(身ぶりや手ぶりなど)アクションが少しオーバーな発表がありました。オーバーが過ぎれば相手に気持ちは伝わりにくくなり、注意が必要です。主張の一貫性に少し物足りなさを感じる発表もありました。ジェンダーに関する発表では一般的な男性と女性の性別役割などにとどまるのではなく、人間対人間の関係性をもっと掘り下げたり、視点の広がりを持った発表を聞きたかったという意見がありました。先生方を含めて今後の参考にしていただければと思います。

講評は以上です。

# 各地区大会の開催結果

(注) 出場者欄 最=最優秀賞 秀=優秀賞 良=優良賞

## 盛岡東地区 応募者数 462人

日時 令和5年8月31日(木) 13:00~16:45

場所 盛岡市立米内中学校

審査委員

(株)岩手日報社編集局編集委員	工藤 武彦
盛岡教育事務所在学青少年指導員	佐々木 真
盛岡市教育委員会教育研究所専門研究員	山口 道明
盛岡東警察署刑事官	佐々木健児
盛岡東地区防犯協会連合会長	鎌田まき子

出場者

良 1	願いは時を超えて	白百合 3年	齋藤 理沙
良 2	あと「90秒」を…	河 南 3年	高橋 大智
3	心の壁を乗り越えて	黒石野 3年	豊島 聖徠
4	私のリーダー論	見前南 3年	吉田 夕咲
最 5	誇りをもって生きること	下 橋 3年	佐々木 煌
6	どちらも笑顔になるように	城 東 3年	及川 希依
7	「夏休み」に終止符を	飯 岡 3年	松ヶ崎菜楠
8	変化	北松園 3年	細越 玲奈
会 9	「共感する力」	米 内 3年	三田地恵汰
10	合唱とともに	巻 堀 3年	小綿 凪
11	父を思い出して考えたこと	見 前 3年	秋田 悠吉
秀 12	「よく生きる」ということ	下小路 3年	利部 遙磨
13	釣り好きな僕が考えるマナー	渋 民 3年	坂本 陸
秀 14	私からあなたへ	上 田 3年	小倉このは
良 15	祖母の介護が教えてくれたこと	岩大教育 学部 3年	多田愛美莉
16	「ありがとう」を伝える	乙 部 3年	西河 大地
17	違いがあって当たり前	仙 北 3年	豊坂 来光
18	「同調圧力」に屈しない	松 園 3年	立柳 心桜
19	私たちにできること	玉 山 3年	山澤 愛美
良 20	平和は人とのつながりから	大 宮 3年	三松 希陽

## 盛岡西地区 応募者数 973人

日時 令和5年8月30日(水) 13:30~16:30

場所 盛岡市立土淵中学校

審査委員

(株)岩手日報社編集局次長兼論説委員	太田代 武
盛岡市教育委員会教育研究所専門研究員	阿部 真一
滝沢市教育委員会社会教育指導員	榊原 世士
雫石町教育委員会生涯文化スポーツ課主事	柴田 慈幸
盛岡西警察署長	吉野 幸雄
盛岡西地区少年警察ボランティア協会会長	切金 一夫

盛岡西地区防犯協会連合会副会長

根澤 将藏

出場者

良 1	互いを認め合うこと	滝沢第二 3年	鎌田 優平
2	自分を助ける	姥屋敷 2年	長嶺 孝明
3	ありのままを受け止める	城 西 3年	倉田 そら
4	思い出の卵焼き	滝沢南 3年	佐藤 徠実
5	コウモリと恥知らず	中央附属 2年	清水 岳
秀 6	山と挑戦と私	土 淵 3年	照井 真菜
良 7	「知る」という選択	厨 川 3年	大溝 望羽
秀 8	震災を知る、そして伝える	土 淵 3年	佐々木雪名
良 9	「あたりまえ」にしたいこと	北 陵 3年	内館 遥
10	町と人をつなぐ虹になる	雫 石 3年	大久保知歩
11	前に進むための勇気	滝 沢 3年	八幡 結乃
最 12	対等を生きる	一本木 3年	横江穂乃果
13	私は私	柳 沢 2年	高橋 心花

## 北岩手地区 応募者数 328人

日時 令和5年8月24日(木) 13:30~16:00

場所 八幡平市立西根中学校

審査委員

八幡平市教育委員会教育長	星 俊也
岩手町教育委員会教育長	佐藤 卓
岩手警察署長	太田 淳
北岩手地区少年警察ボランティア協会会長	松村 昭一
(株)岩手日報社編集局整理部専任部長	鈴木 多聞

出場者

最 1	僕が守りたいもの	小屋瀬 3年	千葉 瑛太
秀 2	知ること、考えること	沼宮内 3年	水賀美幸穂
秀 3	一人の人間として、自分らしく	江 刈 3年	大川原舞桜利
良 4	笑顔が浮かぶように	西根第一 3年	角館 優花
良 5	夢に向かって	松 尾 3年	船橋 慶歌
良 6	ここに生まれてよかった	安 代 3年	八幡 紀穂
7	私の主張	西 根 3年	工藤 朱花
8	「支える」ということ	川 口 3年	金澤 陽大
9	今 私にできること	一方井 3年	遠藤 ひより
10	涙を流した理由	葛 巻 3年	坂本 辰之輔

## 紫波地区 応募者数 204人

日時 令和5年9月5日(火) 13:45~16:00

場所 紫波町立紫波第二中学校

審査委員

盛岡教育事務所在学青少年指導員	島山 雅之
紫波町こどもセンター副センター長	菅野 秀一
(株)岩手日報社編集局整理部第二部長	鈴木 義孝
矢巾町教育委員会教育研究所所長補佐	小山田 孝
紫波警察署長	板澤 裕之

出場者

1 未来への一步	矢 巾 3年 佐藤 優衣
良 2 人は変わる	矢 巾 3年 福士 頼
3 くちびるに歌を	矢巾北 3年 佐藤 采明
4 未来に向かって	矢巾北 3年 生田 侑里
最 5 言葉の重み	紫波第一 2年 伊藤 夢亜
良 6 地域の魅力と宝	紫波第二 3年 高橋 悠人
秀 7 「ふるさと」のために	紫波第三 3年 伊藤 慈真

花巻地区	応募者数	616人
------	------	------

日 時 令和5年9月1日(金) 13:30~16:00

場 所 花巻市立矢沢中学校

審査委員

中部教育事務所在学青少年指導員	齊藤 義宏
花巻市青少年育成市民会議会長	鎌田 幸也
花巻市校長会小学校部会長	本館 憲和
花巻警察署長	及川 聡
花巻市教育委員会スクールソーシャルワーカー	高橋 啓悦
(株)岩手日報社編集委員室次長	君ヶ洞 知里

出場者

1 原動力は「好き」の熱意	矢 沢 3年 大菅みずほ
2 変化は挑戦と環境から	西 南 3年 藤原 秋汰
3 大切なものを守る	花 巻 3年 高野 初音
最 4 「多様性」を超えて	湯 本 3年 千葉 久遠
良 5 誰もが心地よく生きられる社会へ	花巻北 3年 齊藤 花
良 6 弟の存在	南 城 3年 高橋 美侑
7 「ともだち」	大 迫 3年 佐々木和世
8 明日に舞う	湯 口 3年 高野橋瑛奈
良 9 つながりがある社会へ	東 和 3年 日下 愛菜
10 声を出そう	矢 沢 3年 松本 魁斗
秀 11 「ありがとう」	宮野目 3年 田中航史朗
秀 12 なりたい自分	石鳥谷 3年 吉田 颯真

北上地区	応募者数	320人
------	------	------

日 時 令和5年8月30日(水) 13:30~16:00

場 所 西和賀町文化創造館銀河ホール

審査委員

中部教育事務所在学青少年指導員	盛島 徹
-----------------	------

北上市教育委員会教育委員	照井 睦子
西和賀町教育委員会教育長職務代理者	深澤 武志
和賀地区校長会(北上市立和賀西中学校長)	藤原 誠彦
(株)岩手日報社編集局編集委員室長	阿部 知彦

出場者

最 1 心に平和のとりでを	南 2年 千田ソフィア
良 2 共に	北上北 3年 中野健太郎
3 変わりゆく当たり前を考える	和賀東 3年 小原 花
秀 4 15の夏、私の誓い	東 陵 3年 岡本 和奏
5 Change the history	和賀西 3年 佐々木 絆
6 「罵倒」が「応援」に変わる世界のために	湯 田 3年 高橋 大河
7 一刻も早く世界平和を	飯 豊 3年 佐藤 優真
良 8 今、向き合う	北 上 3年 小泉 りさ
9 「エンパシー」で、生きやすい世の中に	沢 内 3年 田中 稟花
10 情報通信機器の活用について	上 野 3年 加藤 宏太
11 わかれ道	江釣子 3年 伊藤万由子

奥州地区	応募者数	524人
------	------	------

日 時 令和5年8月30日(水) 13:40~16:00

場 所 奥州市立水沢南中学校

審査委員

(株)胆江日日新聞社編集局長	小野寺和人
(株)岩手日報社編集局整理部第二部長	窪田 充
県南教育事務所在学青少年指導員	朝倉 啓二
奥州地区少年警察ボランティア協会会長	今野 誠
奥州警察署長	大越 剛

出場者

1 「平和」とはなにか	水沢南 3年 千葉 健真
秀 2 魂を受け継ぐ	金ヶ崎 3年 及川 夕陽
良 3 全ての生物の未来を守るために	衣 川 3年 登藤 萌花
4 私達は守られているって知っていますか?	江刺第一 3年 菊池 由珠
5 相手のことを思う	前 沢 3年 大内 和香
良 6 父の背中を追いかけて	胆 沢 3年 千田 俐希
7 誰かの笑顔のために	水 沢 3年 菅原 結愛
8 親に感謝を	水沢南 3年 北田 ゆい
最 9 地域を守るために	東水沢 3年 後藤 穂風

一関地区	応募者数	249人
------	------	------

日 時 令和5年8月22日(火) 14:00~16:30

場 所 平泉町学習交流施設エピカ

審査委員

平泉町教育委員会教育委員	三浦 英子
県南教育事務所教育相談員	皆川 啓
一関市教育委員会教育研究所教育相談員	渡邊 淳

一関警察署副署長 岡田 憲一  
(株)岩手日報社一関支社長 小山田泰裕

出場者

- |   |              |             |    |        |
|---|--------------|-------------|----|--------|
| 1 | たくさんの人に支えられて | 一関東         | 3年 | 菅野 颯人  |
| 2 | 自分の街を守るため    | 平 泉         | 3年 | 菊地 風花  |
| 3 | プレゼント        | 舞 川         | 3年 | 千葉さつき  |
| 4 | 人と違っても       | 磐 井         | 3年 | 佐藤 春愛  |
| 5 | 私の考える優しさ     | 萩 荘         | 3年 | 佐々木みのり |
| 6 | 自分らしくいられる幸せ  | 桜 町         | 3年 | 大沼 優莉  |
| 最 | 7 心の土台づくり    | 一 関         | 3年 | 近江那奈子  |
| 良 | 8 認め合うこと     | 敵 美         | 3年 | 阿部 柚希  |
| 秀 | 9 個性という花     | 花 泉         | 3年 | 森谷 双葉  |
| 良 | 10 未来はきっと大丈夫 | 一関一高<br>附 属 | 3年 | 大村 樹花  |

一関東地区 応募者数 161人

日 時 令和5年8月30日(水) 13:30~15:00

場 所 東山地域交流センター

審査委員

県南教育事務所在学青少年指導員	北村 正俊
千厩警察署長	豊岡 茂
一関市教育委員会教育研究所教育相談員	及川 輝美
(株)岩手日報社一関支社長	小山田泰裕
(株)岩手日日新聞社編集局編集長	鈴木 朋友

出場者

- |   |                |     |    |        |
|---|----------------|-----|----|--------|
| 1 | 残食から考える        | 東 山 | 3年 | 佐藤 咲香  |
| 2 | 伝統を受け継ぐ        | 大 東 | 3年 | 岩 渕 愛子 |
| 最 | 3 寄り添いたい       | 藤 沢 | 3年 | 伊東 洸璃  |
| 秀 | 4 「違い」を受け入れた先に | 川 崎 | 3年 | 三浦 薫子  |
| 良 | 5 支え合いの輪       | 千 厩 | 3年 | 小野寺竜之介 |
|   | 6 安心して暮らせる町に   | 室 根 | 3年 | 遠藤みのり  |

気仙地区 応募者数 175人

日 時 令和5年8月24日(木) 13:30~15:30

場 所 大船渡警察署

審査委員

沿岸南部教育事務所在学青少年指導員	及川 賢一
気仙地区防犯協会連合会副会長	安田由紀男
大船渡警察署長	永澤 幸雄
(株)東海新報社社長	鈴木 英里
(株)岩手日報社編集局次長	内城 俊充

出場者

- |   |              |     |    |       |
|---|--------------|-----|----|-------|
| 1 | プレッシャーを越えて   | 有 住 | 3年 | 泉田 紗菜 |
| 2 | たった五文字のありがとう | 大船渡 | 3年 | 熊谷 栗那 |
| 良 | 3 心の声を、言葉に   | 世田米 | 3年 | 菊池 真由 |

- |   |               |           |    |       |
|---|---------------|-----------|----|-------|
| 良 | 4 自分の殻を破ってみたら | 高田第一      | 3年 | 菅野 結和 |
| 5 | 君たちはどう生きるか    | 東 朋       | 3年 | 山口 諒介 |
| 最 | 6 私の一步        | 高田東       | 3年 | 伊東里咲子 |
| 秀 | 7 創造する力       | 大船渡<br>第一 | 3年 | 水野 椿己 |

遠野地区 応募者数 151人

日 時 令和5年8月28日(月) 13:30~15:30

場 所 遠野市立遠野中学校

審査委員

中部教育事務所在学青少年指導員	齊藤 義宏
遠野市教育委員会学校教育課長	齋藤 真
遠野市校長会	鈴木久美子
遠野市少年委員協議会副会長	菊池 タキ
(株)岩手日報社整理部専任部長	川端 行生
遠野警察署長	梶谷 修

出場者

- |   |                |     |    |       |
|---|----------------|-----|----|-------|
| 良 | 1 私を救った二つの宝    | 遠野東 | 3年 | 山本 仁愛 |
| 良 | 2 「伝統」の手綱をつないで | 遠 野 | 2年 | 多田 光希 |
| 良 | 3 共に輝き、共に生きる   | 遠野西 | 3年 | 佐々木陽菜 |
| 良 | 4 大切なこと        | 遠 野 | 3年 | 小原 大和 |
| 秀 | 5 言葉と生きる       | 遠野東 | 3年 | 留場 成美 |
| 良 | 6 「出会い」の力      | 遠野西 | 3年 | 菊池 紅葉 |
| 秀 | 7 当たり前に感謝を     | 遠 野 | 3年 | 菊池 倅征 |
| 最 | 8 命の可能性        | 遠野東 | 3年 | 菊池 璃子 |

釜石地区 応募者数 100人

日 時 令和5年8月28日(月) 14:00~16:00

場 所 大槌町文化交流センター

審査委員

大槌町教育委員会教育長	松橋 文明
釜石市教育委員会教育長	高橋 勝
釜石警察署長	田中 洋二
(株)岩手日報社編集員室副室長	黒田 大介

出場者

- |   |                   |             |    |       |
|---|-------------------|-------------|----|-------|
| 1 | 私を変えてくれたもの        | 大 平         | 3年 | 千葉 雫  |
| 2 | みんなが前向きに明るく生きるために | 釜石東         | 3年 | 小笠原愛光 |
| 3 | 「出会い」は世界を変える      | 吉里吉里<br>学 園 | 8年 | 倉本 華  |
| 4 | 言葉の影響力            | 大槌学園        | 9年 | 清水水琳世 |
| 良 | 5 誰かの笑顔のために       | 甲 子         | 3年 | 森 真心  |
| 秀 | 6 負けから学ぶこと        | 唐 丹         | 3年 | 香川 彩香 |
| 最 | 7 誰かの笑顔のために       | 釜 石         | 3年 | 大下 桜雅 |

宮古地区	応募者数	188人
------	------	------

日 時 令和5年8月30日(水) 13:30~16:40

場 所 宮古市立第一中学校

審査委員

宮古市教育委員会教育研究所長	青 笹 光 一
宮古教育事務所長	松 本 洋 介
山田町教育委員会教育研究所長	倉 澤 和 広
(株)岩手日報社整理部第二部長	鈴 木 義 孝
宮古警察署長	佐 藤 普

出場者

良 1 故郷と共に生きる	川 井 3年 黒澤 蓮
2 未来への第一歩	宮古西 3年 大久保汐夏
3 挑み続ける	崎 山 3年 坂本遼奨
秀 4 おにぎり一個分の努力	第 一 3年 小笠原みらい
良 5 声を届けて…	河 南 3年 船山こはく
6 自分らしく生きる	重 茂 3年 小成楓美華
7 大切なものとのめぐりあい	山 田 3年 佐々木玲太
8 今の私の「理想」	第 一 2年 田代百花
良 9 水と命、どっちが大切?	田老第一 1年 畠山芽依
最 10 長い歴史の中で	津軽石 3年 齊藤好花
秀 11 未来につなぐ畜産	花 輪 3年 佐々木 健
12 私のふるさと	新 里 3年 益子寧々
13 自慢の息子	第 二 3年 藤田康晴

下閉伊北地区	応募者数	54人
--------	------	-----

日 時 令和5年8月29日(火) 13:00~15:00

場 所 岩泉町立小本中学校

審査委員

県立岩泉高等学校長	岩 渕 雅 明
(株)岩手日報社	工 藤 光
岩泉町教育委員会教育長	巖 岩 千 裕
田野畑村教育委員会教育長	相 模 貞 一
岩泉警察署長	三 島 木 達 也

出場者

秀 1 言葉に宿るもの	田野畑 3年 高橋柚希
良 2 笑顔の力	田野畑 2年 大泉 翔
3 仲間のおかげで得られた成長	岩 泉 3年 畠山 倅
4 大切にしていきたいもの	岩 泉 2年 長崎乃々佳
5 差別や偏見のない世の中に	小 本 3年 戸由倅奈
6 兄より先へ	小 本 2年 佐々木利理
7 一人ぼっちのヒロイン	小 川 3年 清水野心美
最 8 ないもの探しの先へ	小 川 2年 竹花大和

久慈地区	応募者数	232人
------	------	------

日 時 令和5年9月5日(火) 13:30~16:15

場 所 洋野町民文化会館セシリアホール

審査委員

洋野町教育委員会教育長	滝 川 幸 弘
久慈警察署長	岩 間 茂
久慈地区中学校文化連盟	中 野 善 文
(株)岩手日報社編集局整理部専任部長	藤 村 成
久慈地区少年警察ボランティア協会長	瀨久保優司

出場者

1 小さな変化	普 代 3年 太田魁吉
良 2 震災を乗り越える	久 慈 3年 根井希絆
秀 3 今できるその一つから変えていこう	中 野 3年 粒来佳太郎
良 4 頼ってみてもいいんじゃない?	侍 浜 3年 久慈未紘
最 5 どこへ行っても	山 形 3年 下館春稀
秀 6 想いを繋いで	野 田 3年 林崎舞海
7 私達の久慈市、私達のすること	宇 部 3年 滝澤光来
良 8 校則について考える	種 市 3年 小林 稀
9 「やさしい言葉」を使うと	三 崎 3年 菊地凛香
10 あんな人になりたい	長 内 3年 外里亜美
11 文化を繋ぐ	大川目 3年 門舛到和
12 神楽を受け継ぐ	夏 井 3年 栃山碧輝

二戸地区	応募者数	9人
------	------	----

日 時 令和5年9月5日(火) 13:30~15:40

場 所 軽米町立軽米中学校

審査委員

県北教育事務所在学青少年指導員	新 毛 公 生
軽米町教育委員会教育長	小 林 昌 治
二戸警察署長	千 葉 孝 喜
二戸地区少年警察ボランティア協会長	田 畑 文 弥
(株)岩手日報社編集局整理部専任部長	佐 藤 洋 一

出場者

1 「生きづらい」がゼロな社会へ	福 岡 3年 堀内咲来
2 餓死をなくすためにできること	金田一 2年 高森小町
最 3 心・技・体	浄法寺 3年 田口悠就
秀 4 愛を紡いでいく	軽 米 2年 黒瀬ひなた
良 5 「今やるべきこと」を考え続ける	軽 米 3年 東山勇生
6 土俵の下から	九 戸 2年 小野寺汐音
7 「気づき、考え、実行する」	一 戸 3年 柴田光璃
8 私の当たり前	奥中山 3年 森 智哉

# 令和5年度（第25回）「わたしの主張岩手県大会」審査要領

## 1 審査基準

### (1) 採点の基準

各審査委員の持ち点は、発表者1人につき、次の区分による100点とし、採点は減点法とする。

ア 論 旨	55点	} 計 100点
イ 表 現	30点	
ウ 態 度	15点	

エ 時 間 主張時間は5分とする。

※ 主張時間が4分30秒未満の場合又は5分30秒を超える場合は、それぞれの時間から10秒を過不足するごとに1点を減点する。

※ 発表時間は、読み始め（パフォーマンス含む）から読み終わり（パフォーマンス含む）までとする。

### (2) 採点の内容

- ア 論 旨：① 若者（中学生）らしい感性で、新鮮な主張であるか。  
② 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。  
③ 自己の目標を实践する意欲や、提言に関する熱意・真剣さを感じられるか。  
④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- イ 表 現：① 熱意と説得力があり、聴衆に感銘を与えたか。  
② 言葉や発声は明瞭で、抑揚・間の取り方も適切であったか。
- ウ 態 度：（聴衆をよく見て）落ち着いた態度であったか。
- エ 時 間：・主張開始後5分 …………… ベルを1回  
・主張開始後5分30秒 …………… ベルを2回

## 2 審査方法

### (1) 審査表の記入

各審査委員は、各発表者の審査結果を、審査採点票（個票）及び審査採点票（控）に記入する。

### (2) 順位の決定

各発表者の主張終了後、審査会において最優秀賞1人、優秀賞2人及び優良賞3人を選考する。

受賞者の決定は、採点集計表を参考とし、審査委員の協議によるものとする。

なお、最優秀賞受賞者は、「少年の主張全国大会」候補者として、北海道・東北ブロック審査会に推薦するものとする。

## 3 成績発表及び講評

審査委員長が結果を発表し、講評を行う。

※各地区大会の審査要領は、岩手県大会審査要領に準じるものとする。

## 令和5年度（第25回）「わたしの主張岩手県大会」実施要綱

### 1 目的

次代を担う中学生が、未来に向けての夢、社会に対しての意見や希望、日常生活の中で感じたこと（意見・発見・提案・疑問）など、自分の気持ちを素直に表現する弁論の場を提供することにより、地域社会との関わり（つながり）について考え、行動する契機にするとともに、参加中学生の文化的な資質向上に寄与し、大人を含めた多くの人が、中学生に対する認識、理解を深めることにより、少年の健全育成の充実を期そうとするもの

### 2 対象

県下に在住している中学生及びこれに相応する学籍又は年齢にある方

### 3 主催

わたしの主張岩手県大会実行委員会

【 岩手県 岩手県教育委員会 岩手県警察本部 （公社）岩手県青少年育成県民会議  
（公社）岩手県防犯協会連合会 （株）岩手日報社 岩手県中学校文化連盟 】

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

### 4 共催

盛岡市 盛岡市教育委員会

### 5 後援

岩手県中学校長会 岩手県PTA連合会 NHK盛岡放送局 IBC岩手放送 テレビ岩手  
エフエム岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ

### 6 開催日時

令和5年9月13日（水） 13時～16時30分

### 7 開催場所

盛岡劇場（盛岡市松尾町3-1）

### 8 開催方法

参集しての通常開催としますが、新型コロナウイルス感染症等の拡大の状況により、一般の観客は入場しない無聴衆での開催や、会場には参集せず作文・映像での審査会とする場合もあります。

### 9 出場者

別に定める推薦要領に基づき、地区大会において推薦された17名による主張発表を行います。

### 10 発表内容

#### (1) 主張の内容

以下の内容を参考として、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを率直に表現してください。未発表・自作のものに限ります。

分類	内 容	これまでの例(参考)
A	・ 社会や世界に向けての意見 ・ 未来への希望や提案 等	・ 環境問題、国際社会について ・ 地域の伝統文化・伝統芸能 ・ 貧しい国への支援 ・ 介護の問題 ・ 夢に向かって 等
B	・ 家庭、学校生活、社会（地域社会）との関わり ・ 身の回りや友達との関わり 等	・ 命の尊さ ・ 共に生きる(障がいと向き合う) ・ 家族愛 ・ 人との関わり ・ 復興への思い 等
C	・ 安全で安心な生活ができる地域社会づくり ・ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動 ・ 大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言 等	・ 犯罪のない明るい地域社会づくり ・ 交通事故を防止するには ・ いじめのない社会生活 ・ 公共のマナーや規則を守ること ・ インターネットやスマートフォンの危険、正しい利用方法 ・ 報道されている事件や事故の防止 等

※ 複数の分類に関わることも想定されます。重複可能です。

※ 商業的な固有名詞の使用は、極力避けるようにしてください。

（悪い例：〇〇県にある〇〇旅館 良い例：〇〇県にある旅館 等）

(2) 発表方法

自由（日本語で発表することが条件）

※ 発表の際はマイクを使用します。

※ 発表に際しては、パフォーマンス（例えば、服装は自由とし、小道具を使用してもよい。）を取り入れてもよいこととします。ただし、発表者以外の動作・補助等は認めません。

※ 発表者の礼は、発表前後の2回とします（礼は審査対象とはなりません）。

(3) 発表時間

5分間（400字詰め原稿用紙4枚程度）

※ 発表時間は、読み始め（パフォーマンス含む。）から読み終わり（パフォーマンス含む。）までとします。

※ 発表時間が4分30秒未満の場合又は5分30秒を超える場合は、採点の際に1点減点となりますので、ご注意ください。（さらに10秒ずつ過不足するごとに1点ずつ減点）

【発表時間による減点】

時間	4' 10～4' 19	4' 20～4' 29	4' 30～5' 30	5' 31～5' 40	5' 41～5' 50
減点	2	1	0	1	2

11 表彰

発表終了後、直ちに開催する審査会において、最優秀賞1名、優秀賞2名及び優良賞3名を選考し、表彰します。

なお、最優秀賞受賞者は、北海道・東北ブロック審査会に「少年の主張全国大会」の候補者として推薦します。

12 自然災害等への対応

(1) 自然災害等による大会中止

大会中止の判断基準は、以下のとおりとします。

① 自然災害等により、欠席者が3分の1を超える見込みの場合（7名以上が参加できない場合）

② 会場及び会場周辺の被災等により、当日の大会開催が困難な場合

(2) 大会中止時の対応について

① 当日8：30分前に中止と判断した場合は、直ちに参加者等へ連絡します。

※ 当日8：30以降は、原則として参加可能者のみで大会を実施し、最優秀賞受賞者を東北・北海道ブロック大会へ推薦します。作文・映像審査は行いません。

※ 当日8：30以降であっても、12(1)②と判断される場合には、大会を中止し、直ちに参加者等に連絡します。

② 大会中止の場合も、12(1)②の場合を除き、会場に集合可能な審査員に集合していただき、作文・映像審査により最優秀賞を決定します。

(3) 新型コロナウイルス感染症等の拡大に伴うリスクへの対応

感染拡大や学校行事等の状況を考慮しながら、開催の有無や開催の方法等について実行委員会で随時協議し、各地区実行委員会に連絡します。

13 その他

(1) 提出された原稿・映像データは返却しません。また、岩手県大会に参加した作品の著作権・放映権は、大会主催者に帰属します。映像データは、個人情報が含まれるため大会終了後に大会主催者が消去又は廃棄します。

(2) 岩手県大会出場者及び引率者(1名)の旅費は、主催者が負担します。県大会出場者には、出場決定後改めて案内を送付します。

14 問合せ先

【主に実施要綱や地区大会の結果取りまとめ等に関すること】

わたしの主張岩手県大会実行委員会事務局 〒020-8570 盛岡市内丸10-1 岩手県環境生活部若者女性協働推進室内 TEL 019-629-5336・FAX 019-629-5354
---

【主に県大会出場者や県大会の運営に関すること】

公益社団法人 岩手県青少年育成県民会議 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 アイーナ6階 TEL 019-681-9077・FAX 019-681-9078
--

【主に地区大会の運営・予算に関すること】

公益社団法人 岩手県防犯協会連合会 〒020-0881 盛岡市天神町11-1 岩手県交通安全会館 TEL 019-653-4448・FAX 019-653-4488
---

## わたしの主張岩手県大会の期日・会場及び最優秀賞受賞者

備考欄（全国大会出場）：※1 青少年育成国民会議会長奨励賞受賞、※2 文部科学大臣奨励賞受賞  
※3 審査委員会委員長賞受賞、※4 国立青少年教育振興機構奨励賞受賞

回	年度	開催 期日	会 場	最優秀賞受賞者			
				学校名・学年	氏名	発 表 題	備 考
1	11	11.9.24	盛岡市立飯岡中学校	一関市立厳美中学校 3年	佐藤 遙	苦悩の日々を乗り越えて	
2	12	12.9.21	矢巾町 田園ホール	花巻市立南城中学校 2年	小野寺 静	日本と中国のかけ橋に	
3	13	13.9.19	玉山村 姫神ホール	釜石市立甲子中学校 3年	八幡 茜	海外語学学習で学んだ心	※1
4	14	14.9.19	雫石町 野菊ホール	久慈市立久慈中学校 3年	高安 愛美	風に吹かれて	※1
5	15	15.9.19	岩手県立大学講堂	東山町立東山中学校 3年	高橋 志帆	老いも誇り	
6	16	16.9.27	花巻市文化会館	北上市立南中学校 3年	菅原 周平	嗺の言葉と言葉の話	※2
7	17	17.10.4	盛岡市 都南文化会館	盛岡市立上田中学校 3年	坂本 潤奈	私は地球人	※2
8	18	18.9.20	盛岡市 アイーナホール	遠野市立上郷中学校 2年	奥寺 大輔	とらわれない心で	
9	19	19.9.26	滝沢村 チャグチャグホール	普代村立普代中学校 3年	内野沢 さつき	おじいちゃんからの伝言	
10	20	20.9.24	紫波町立紫波第二中学校	八幡平市立松尾中学校 3年	藤原 寛	「吃音」の壁を越えて	※1
11	21	21.9.24	盛岡市 盛岡劇場	盛岡市立上田中学校 3年	西郷 華菜	伝えていく責任	※4
12	22	22.9.24	花巻市立石鳥谷中学校	盛岡市立見前中学校 3年	因幡 百合絵	どうせ枯れる花ならば	
13	23	23.9.22	滝沢村立滝沢南中学校	陸前高田市立気仙中学校 3年	小笠原 和恵	高らかに 響け	※3
14	24	24.9.20	盛岡市 盛岡劇場	遠野市立小友中学校 2年	菊池 愛利子	「命」をいただく仕事	
15	25	25.9.19	矢巾町 田園ホール	山田町立山田中学校 3年	中村 奈緒	「当たり前」の中に生きる	※4
16	26	26.9.18	雫石町 野菊ホール	岩手大学教育学部附属中学校 3年	渡邊 美卯	一言の重さ	※4
17	27	27.9.11	盛岡市 キャラホール	西和賀町立沢内中学校 3年	佐々木 瑠海	支えられている命だから	
18	28	28.9.15	盛岡市 小田島組☆ほ～る	北上市立南中学校 3年	石川 杏奈	強く 優しく 未来を見つめて	
19	29	29.9.14	滝沢市 ビッグルーフ滝沢	奥州市立東水沢中学校 3年	小野寺 悠来	得意なことを数えよう	※4
20	30	30.9.14	矢巾町田園ホール	岩手県立一関第一高等学校附属中学校 3年	小野寺 千里	挑戦し続ける勇気	※4
21	R1	R1.9.18	盛岡市 小田島組☆ほ～る	宮古市立第一中学校 3年	小笠原 凜	自由にはばたける社会へ	
22	R2	R2.9.16	滝沢市 ビッグルーフ滝沢	盛岡市立下橋中学校 3年	鈴木 凜	生き続ける	
23	R3	R3.9.15	岩手県庁会議室	滝沢市立柳沢中学校 3年	高橋 美花	挨拶	
24	R4	R4.9.14	盛岡市 小田島組☆ほ～る	田野畑村立田野畑中学校 2年	三上 結楽	色を纏うように	

(参考)

## 「第45回少年の主張全国大会～わたしの主張2023～」 入賞作品

### 【内閣総理大臣賞】

鳥取県代表

矢曳 未来（やびき・みらい）さん 米子市立東山中学校 3年  
発表テーマ：私が歩む夢への道

### 【文部科学大臣賞】

山形県代表

冨樫 蒼汰（とがし・そうた）さん 酒田市立第一中学校 3年  
発表テーマ：大切な家族

### 【国立青少年教育振興機構理事長賞】

愛知県代表

竹内 愛子（たけうち・えこ）さん 常滑市立常滑中学校 3年  
発表テーマ：ガチャガチャ言っても始まらないか！

### 【審査委員会委員長賞】

北海道代表

三浦 かな（みうら・かな）さん 下川町立下川中学校 3年  
発表テーマ：恨みを愛へ

#### 1 「第45回少年の主張全国大会～わたしの主張2023～」について

- (1) 主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構（後援 内閣府、文部科学省ほか）
- (2) 開催日時：令和5年11月12日（日）13：00～16：00
- (3) 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
- (4) 参加者：各都道府県より推薦された地方大会（都道府県大会）優秀者1名、計47の中からブロック代表として選ばれた12名

※ 岩手県大会最優秀賞受賞者の北上市立南中学校2年千田ソフィアさんが努力賞を受賞しました。

- 2 入賞作品を印刷物等に転載する場合は、国立青少年教育振興機構（教育事業部事業課事業係 TEL03-6407-7726）から許可を受けてください。

## 私が歩む夢への道

鳥取県 米子市立東山中学校 3年 矢曳 未来

私は障がいを持っている障がい者だ。生まれつきではなく、6年前に交通事故に遭ったことで後遺症が残ってしまったのだ。事故後のショックで歩けなくなった。記憶力が低下した。集中力が続かなくなり、些細なことで疲れて怒りっぽくなった。私はその後遺症を負ったことで、できないことが増えた。生活に関する不自由、勉強に関する不自由、その他色々なことで前の自分のほうが良かったと思う。最近は怒りの気持ちより、悲しみの気持ちが増えたように思う。

私には2つ上の姉がいる。私は今、中学校3年生だから、高校進学を考えたときに真っ先に頭に浮かんだのは姉だった。姉と同じ高校に行きたいと思った。けれど、それはとても難しい選択だと知っていた。私には障がいがあり、姉とは違うからだ。障がいを負ったことで、勉強に集中して取り組むことが難しくなり、できることよりできないことが増えた私に高校進学なんてできるだろうかと考えた。今は自分の体の状態が少しずつわかってきたからこそ言えることだが、私には普通校進学は難しいのだろうと考えている。けれど、前は変わった自分を受け入れたくなかった。やれば私はできる。元のように戻れると考えていた。そう思って中学校に通ってきたが、今となってはそれも難しいということを知った。大きくなるにつれ、自分の体がわかってきたからだ。自分を知るというのは、辛いことなのかもしれない。私は、そのことを理解したときから、なんだか体の力が抜けて悲しくなった。私は、もしかしたら小学校から中学校に上がる時、事故に遭う前の自分に戻りたくて、姉と同じ東山中学校を選んだのかもしれない。

そんな理由で選んだ中学校だけど私は今、その選択をして良かった、幸せだと思う。なぜなら中学校に通っていると、先生たちが私を本当に大切にしてくれているということがわかるからだ。それは、私が今、何よりも欲している気持ちだ。ま

た、中学校に通うことで、同級生と一緒に勉強をすることができた。勉強だけではなく、色々なことに挑戦させてもらえた。委員会活動や応援団に参加することができた。そしてこの3年間を通して、私は全てが全て融通が効くわけではないということも知ることができた。

私は大人になったら、支援学校や支援学級の教師になりたい。中学校の先生達が私を大切にしてくれているように、私も教師になったら、支援学校や支援学級の子供達を大切にしたい。生まれつきの障がいがあったり、体が不自由で普通校には通えなかったりする子供達に「あなた達には居場所がある、一人ではない」ということを知ってもらいたい。そのために私は自分を見つめ、自分にできることを探していきたい。だから私は、高校は養護学校に行きたい。養護学校で自分の可能性を見つけ、自分にできること、誰かの役に立てることを探していきたい。

私は最初からこのような考えを持っていたわけではない。最近になってやっと「できない自分」を受け入れられるようになってきたのだ。小さい頃から頑固で、これだと決めれば、周りの人の言うことなんて聞かなかった。だから事故に遭って同年代の人達より、できないことが増えたということが、ものすごくコンプレックスだった。

けれど、もうそれは過去の話だ。今の私はこうなのだから仕方がない。この考えは、自分ではできないと諦めたのではなく、自分を認めたのだ。私は、私なりの道を歩むことを願う。私は自分の歩幅でゆっくりゆっくり「私の夢」を叶えようと思う。目的地へ時間をかけて進んでゆくカタツムリのように。私の夢はどこまでも続いていく。

## 大切な家族

山形県 酒田市立第一中学校 3年 富樫 蒼汰

みなさんはスペクトラム自閉症という病を知っていますか？この病の特徴には対人関係を調整することの難しさ、こだわりの強さがあります。先天的なものなので、特性を完全になくすということは困難とされています。僕の弟は去年、このスペクトラム自閉症と診断されました。

弟は気に入った音楽や遊びはずっと繰り返し、他を取り入れようとしません。相手の表情を見て相手の気持ちをくみ取ることが難しく友達と度々トラブルになりました。大きな音も苦手です。ただ僕は、そんなこと誰だってあるじゃないか。僕だって空気を読めなくて友達とトラブルになるときだってあるし、好きな音楽は何回も聴く。どうして弟だけそんな病名をつけられるんだ！と怒りさえ覚えました。

とはいえ弟は学校で度々トラブルを起こし、学校からの電話で謝っている母を見ていたので、僕が弟にきつく怒ることも増えました。母はその度に、「本人も精一杯やっているから、責めないであげてね。」というばかりで、弟を叱ることはしませんでした。

ある時、兄弟だけで映画を見に行く機会がありました。大人気アニメの映画公開初日ということもあり、映画館にはたくさんの方がいました。弟もとても楽しみにしていました。チケットを購入し、いざ映画館に入ろうとしたら弟が気持ちが悪く言い出し、たくさんの方がいるところで嘔吐してしまいました。僕も兄も驚いて、苦しんでいる弟を前に何もすることができませんでした。他のお客さんがすぐに駆けつけてくれてその場は収まりましたが、もう映画は始まってしまい、僕も兄も焦りと周りの人に迷惑をかけたという恥ずかしさもあり、苛立ちを抑えることができませんでした。そして弟に対して、「どうすんなや！！入れないなら帰れ！！」と怒鳴ってしまいました。

家に帰り、事情を母に話しました。母はそんな時も弟を責めることはしませんでした。僕たちには、また今度映画に連れて行くから、今日のことは許してねと謝って来ました。そして弟を抱きしめながら、「怖い思いをさせてごめんね。お母さんも一緒に行けば良かったね。ごめんね。」と涙を浮かべ、ただ謝っているだけでした。僕は我慢していた何か弾けるのがわかりました。気づい

た時には母に向かって叫んでいました。

「なんでお母さんが謝んなや！！悪いのはこいつだろ！！こいつのせいで俺らは恥かいたし、映画も見れなかった！！もうこいつとは絶対に一緒に行かない！！」と。

母の腕の中にいた弟が僕の前に来て、「蒼汰ごめん。兄ちゃんごめん。ぼくもう映画に行かないから。」と泣きながら言いました。

それから母は約束通り、僕と兄だけで映画を見る機会を設けてくれました。弟は笑顔で手を振り見送ってくれましたが、僕はその後に見た映画の内容がほとんど頭に入って来ませんでした。

帰りのバスの中で兄と、弟のことについて話をしました。あの日、弟は具合が悪くなりたくてなかったわけではないこと、僕たちに恥をかかせたかったわけではなかったこと、そして何より、家族の僕たちが弟の理解者でなければいけないことなど。

それから僕と兄は弟が映画を見られる方法を考えました。人混みをさけるために平日の遅い時間で予約をし、具合が悪くなった時のために出口に近い席を選びました。大きい音が苦手なので、耳栓を買いました。

そして当日。弟は最初はとても緊張していましたが、僕たちがいるから大丈夫だと声をかけ、手を繋いで一緒に座って、最後まで映画を見ることができました。映画館を出ると、心配そうに待っていた母に走って行って、

「楽しかった！！最後まで見れた！！」と嬉しそうに話しました。それを見た僕と兄もガッツポーズをしました。

まだこのスペクトラム自閉症についてわからないことは多いけれど、それでもいろいろなやり方で苦手とすることも乗り越えることができると僕は思います。

弟の病気に限らず理解しづらい病気を抱えている人は多くいると思います。僕は弟を通して知ったことを忘れず、手助けを必要とする人に率先して手を差し伸べられる人になりたいです。

## ガチャガチャ言っても始まらないか！

愛知県 常滑市立常滑中学校 3年 竹内 愛子

私の住んでいる町に、大きな商業施設があり、その一角に、それはそれはビックリするくらいたくさん台数のガチャガチャが置いてある場所があります。いつもそこには、たくさん子ども達や大人の皆さんが集まっていて、みんなそれぞれ自分の好きなガチャガチャを見つけては楽しんでいます。中には何回も何回もお金を出して、くり返しくり返しやっている人もいます。自分の納得いく、求めているものが出てくるまで何回もやっているみたいです。お金持ちな人だなあ、って思います。ガチャガチャって何回やったとしても、何が出てくるのか分からないし、ずっとお金をかけてやっていたら絶対にお目当ての物が出てくるという保証もないし、いくらやっても、延々ずっと自分は全然ほしくない！って物が何回も出続けるのかもしれないし、どうやったってどう努力したって、何が出てくるのかは分からないわけで、自分の力ではどうにもならないことなわけで。

そんな、すべて運に任せるしかないガチャガチャに例えて、「〇〇ガチャ」という言葉が出回っていることを、私は最近知りました。スマホで見つけた記事の中に、「親ガチャ」という言葉がありました。「親ガチャ失敗」「親ガチャハズレ」こんな言葉も書いてありました。「先生ガチャ失敗」「先生ガチャハズレ」最初は、言葉の意味が分かりませんでした。楽しいガチャガチャのイメージがあるので、楽しい言葉かと思ったら、決して楽しい言葉というわけではありませんでした。自分はどんな親の元に生まれてくるかを選ぶことはできない。どんな親の元に生まれてくるかで自分の人生も決まってしまう、という考え方をガチャガチャに例えて表している言葉で流行語大賞にノミネートされるほど若者の間で交わされている言葉だそうです。

実際、私自身は使ったことのない言葉ですが、確かによく考えてみると、私たちは父や母をガチャガチャのように選ぶことはできません。生まれたときから、自分を産んで育ててくれる人は決まっているわけで、自分の意志では選べません。私は、この一見楽しそうに聞こえるけど実はグサッと刺さる言葉が、あまり好きになれません。この言葉が、普通に飛び交う世の中がちょっと悲しい

な、って思います。自分の人生のうまくいかないところを100パーセント他の人のせいにはしているように聞こえてきて、もうこれからどんなに頑張ったって努力したってそんなの無駄だぜ、って誰かに言われているみたいで悲しくなります。確かに、自分がいくら頑張ったってどうにもならないこと、個人の努力を越えたものもたくさんあると思います。私にとっての人生って、まだまだずっと先の長くて見えない分からない世界なんだろうなあ。分からなくて見えなくて、不安で、なかなか上手くいかなくて、って世界なのかなと思います。

私の母がよく言う言葉、「人生は、うまくいかないことばかり、8割！ほとんどはうまくいかないの！その代わり、残りの2割、うまくいった時はめちゃくちゃうれしい！そのくり返し」母の言うように、はじめからそう覚悟を決めておけば、どうにかこうにか人生の荒波の中でもこぎ続けられるようなそんな気がしてきます。私もいつもそんな強い人間ではいられないので、自分の思うようにいかない時に、思わずこの「ガチャ」という言葉を使ってしまうことがあるかもしれません。もし使ってしまったとしても、心の中では、「自分にもなにか問題点があるんだろうな」って思える、そんな人でありたいです。そして、流行というものは、いつかは廃れていくものだと信じて、この「ガチャ」という言葉もそのうち流行しなくなって、世の中から消えてしまえばいいなって思います。だってやっぱり、一度きりの、自分だけの、大切な人生だから。自分だけにしか創り出せない、自分だけの大切な時間だから。この先どんな事が待っているか分からないし、転んでばかりの毎日かもしれないけれど、自分の日々を大切にしたい。

「ガチャガチャ言っても始まらないか！」

自分の気持ちと自分の責任で過ごしていく。そして、ガチャガチャワチャワチャとした楽しい時間が、少しでも増えますように。そんな毎日になりたいです。

## 第 25 回わたしの主張岩手県大会発表文集

令和 5 年 12 月発行

編集 公益社団法人岩手県青少年育成県民会議

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1 丁目 7 - 1

いわて県民情報交流センター（アイーナ）6 階

電話：019-681-9077 FAX：019-681-9078

ホームページ：<http://www.ipayd.server-shared.com/>

※ 転載等の問い合わせは、上記へご連絡ください。



